



取扱説明書

■ レシプロオイルフリーコンプレッサ

Oilfree

パッケージ形 (CFP)

CFP15CF-8.5,-8.5D CFP55CF-8.5,-8.5D,-14D
CFP22CF-8.5,-8.5D CFP75CF-8.5,-8.5D,-14D
CFP37CF-8.5,-8.5D CFP110CF-8.5,-8.5D,-14D

このたびは、レシプロオイルフリーコンプレッサをお買いあげ
いただきましてありがとうございました。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。
- お読みになった後は、本書を手近な所に保管しご活用ください。

※下表の空欄に必要事項をご記入ください。

修理・サービスの際に必要となります。

形 式 MODEL	
製造番号 SERIAL NO.	
購 入 先	
購 入 年 月	年 月 日
使用開始日	年 月 日

残留リスク




■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

製品名:「CFP15CF-8.5 CLP22CF-8.5 CFP37CF-8.5 CFP55CF-8.5 CFP75CF-8.5 CFP110CF-8.5
CFP15CF-8.5D CFP22CF-8.5D CFP37CF-8.5D CFP55CF-8.5D CFP75CF-8.5D CFP110CF-8.5D
CFP55CF-14D CFP75CF-14D CFP110CF-14D」

2013年8月29日 作成 アネスト岩田株式会社

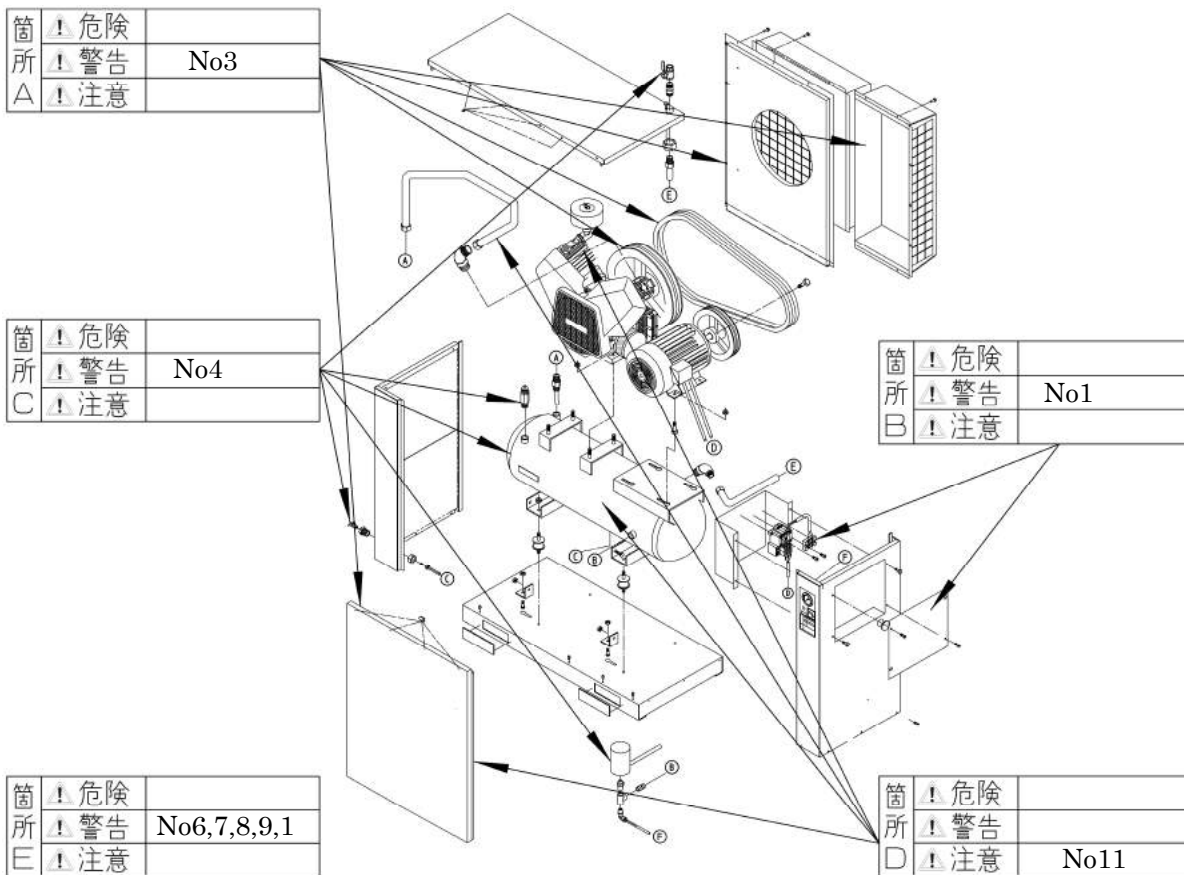
※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・  危険: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・  警告: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・  注意: 保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

図中に示されている箇所の記号及び番号は、本製品の「残留リスク一覧」に記載されているものと一致している。各々の残留リスクの詳細については、「残留リスク一覧」を参照のこと。

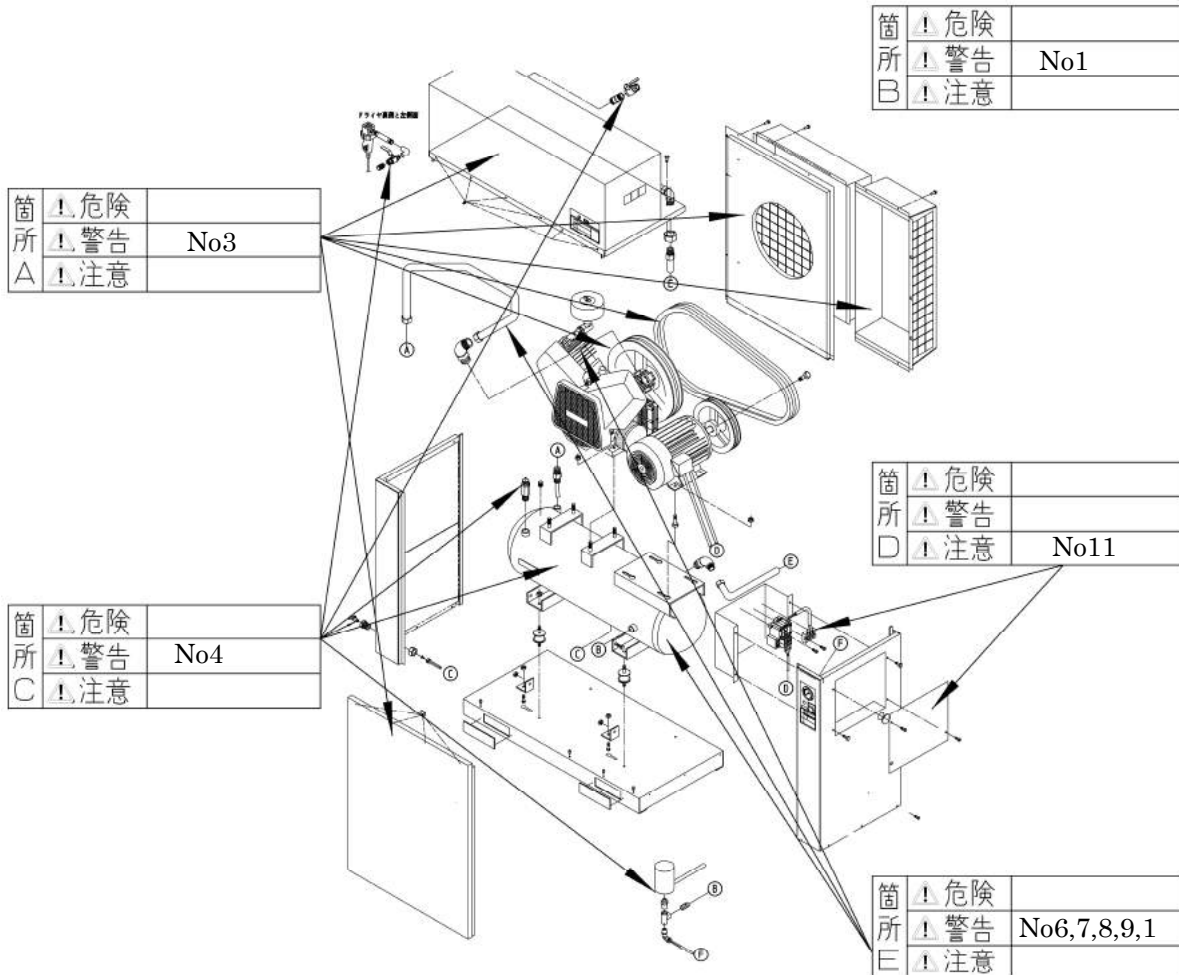
「CFP15CF-8.5 CFP22CF-8.5 CFP37CF-8.5 CFP55CF-8.5 CFP75CF-8.5 CFP110CF-8.5」



残留リスク

■ 機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

「CFP15CF-8.5D CFP22CF-8.5D CFP37CF-8.5D CFP55CF-8.5D CFP55CF-14D CFP75CF-8.5D
CFP75CF-14D CFP110CF-8.5D CFP110CF-14D」



残留リスク

■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留一覧)

製品名:「CFP15CF-8.5 CLP22CF-8.5 CFP37CF-8.5 CFP55CF-8.5 CFP75CF-8.5 CFP110CF-8.5
CFP15CF-8.5D CFP22CF-8.5D CFP37CF-8.5D CFP55CF-8.5D CFP75CF-8.5D CFP110CF-8.5D
CFP55CF-14D CFP75CF-14D CFP110CF-14D」

2013年8月29日 作成 アネスト岩田株式会社

※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・⚠ 危険: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・⚠ 警告: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・⚠ 注意: 保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

「機械上の箇所」として示されている記号は、本製品の「残留リスクマップ」に記載されている機械上の箇所の記号である。機械上の具体的な箇所については、「残留リスクマップ」を参照のこと。

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所 ※2	危害の程度 ※1	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方法	取扱説明書の頁
1	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	感電する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルを取り外して運転しない。 ・保護パネルを外して運転しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・アースを必ずとる。 ・規定サイズの漏電遮断器を使用する。 ・ナイフスイッチ等のヒューズ式保護スイッチは使用しない。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P7 P8 P19 P20 P22 P24
2	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	発火により火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・規定以下の電源用ケーブルを使用しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P7 P8 P19 P20 P24
3	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	-----	A	警告	ベルト、プーリ、ファンに手や工具等を近づけると巻き込まれ怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルを取り外して運転しない。 ・保護パネルを外して運転しない。 ・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P8 P22 P34

残留リスク

No	運用 段階	作業	作業に必要な 資格・教育	機械上の 箇所※2	危害の 程度	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方法	取扱 説明書 の頁
4	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	-----	C	警告	圧縮空気が噴出したり、物が飛散することで怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルを取り外して運転しない。 ・保護パネルを外して運転しない。 ・安全弁のチェック時に安全弁に顔を近づけない。 ・保安機器の設定を無断で変更しない。 ・作業前には必ず圧縮機の空気をすべて抜き、圧力がないことを確認する。 ・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P8 P22 P33 P34
5	運転	運転する時	-----	C	警告	圧縮空気を吸引して障害を負う。また、圧縮機周辺の大気に有毒ガス等が含まれていると、同じものが圧縮空気にも含まれるため、吸引すると人体に重大な影響を与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しない。 ・周囲に有毒ガス等がない場所に設置する。 	P7 P8
6	運転	運転する時	-----	E	警告	圧縮機が故障すると人命にかかわる設備が止まり人体に重大な損傷をあたえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を人命にかかわる設備に使用しない。 	P8
7	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	-----	E	警告	爆発・発火し怪我・火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発性・引火性ガス、有機溶剤など、可燃物の付近に設置しない。 	P8 P16
8	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	-----	E	警告	感電する。 発火により火傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外に設置しない。 ・雨・蒸気が当たる場所、湿度が高い場所、結露しやすい場所に設置しない。 ・ごみやほこりが堆積する場所に設置しない。 	P7 P16
9	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	-----	E	警告	爆発・発火し怪我・火傷をする	<ul style="list-style-type: none"> ・空気以外を圧縮しない。 ・圧力開閉器の設定を指定以外に調節しない。 	P8 P33
10	準備	設置する時	-----	E	警告	コンプレッサが落下してはさまれたり下敷きになり怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・質量に十分耐えられる(余裕のある)吊り具を使用する。 ・重心位置を考慮しバランスよく吊り上げる。 	P16
11	運転	運転する時	-----	D	注意	高温部に触れて火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルを取り外して運転しない。 ・保護パネルを外して運転しない。 ・運転中や運転直後のコンプレッサ各部に手を触れない。 	P9 P28

はじめに

■ 重要なお知らせ

この取扱説明書には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。







警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


注意


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を、又は物的損害の発生が想定される内容を示しています。

● 絵表示例

	この記号は「注意すべきこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。		(上の例は感電注意)
	この記号は「してはいけないこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。		(上の例は接触禁止)
	この記号は「しなければならないこと」を意味しています。 この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。		(上の例は必ずアース線を接続せよ)

● 補足表示

 お願い	この記号は、機械の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。
--	---

 ワンポイント	この記号は、知っているのと役に立つ知識、アドバイスなどを示しています。
---	-------------------------------------

※警告、注意の表示を無視して使用した場合の損害および損傷については、当社は一切責任を負えませんのでご了承ください。

● 法律による届出（騒音規制法および振動規制法）

※7.5kW以上の空気圧縮機を設置の場合は、届出の対象となります。詳細はP40をご覧ください。

● この商品の保証について

※巻末に保証と修理サービスについての説明があります。内容をよくお読みください。

目次

残留リスク

- 残留リスクマップ…………… 1～2
- 残留リスク一覧表…………… 3～4

はじめに

- 重要なお知らせ…………… 5

目次

6

安全上のご注意

- 警告…………… 7～8
- 注意…………… 9
- 警告表示貼り付け位置…………… 11

現品確認

- 形式の見方…………… 11
- 付属品一覧…………… 11

各部の名称

- 外観(1.5～3.7kW)…………… 12
- 製品外形寸法(1.5～3.7kW)…………… 12
- 各部の名称(1.5～3.7kW)…………… 13
- 外観(5.5～11kW)…………… 13
- 製品外形寸法5.5～11kW)…………… 14
- 各部の名称5.5～11kW)…………… 15

設置場所

- 警告…………… 16
- お願い…………… 17

配管

- 2台以上の並列配置…………… 18

配線

- 電気配線…………… 19～20

試運転

- 準備…………… 21
- 固定金具の再固定…………… 22
- ドライヤなしの場合…………… 23
- ドライヤ付きの場合…………… 23
- 回転方向の確認…………… 24
- 制御圧力の確認…………… 25
- タンクドレンの排出確認…………… 25

運転操作

- 操作盤1.5～3.7kW)…………… 26
- 操作盤(5.5～11kW)…………… 27

日常運転の管理

- 運転開始…………… 28
- 運転中…………… 28
- 運転終了…………… 29

保守・点検

- 保守点検一覧表…………… 30～31
- ドライヤ部分の保守・点検…………… 32
- 機能点検…………… 33
- 安全弁の設定圧力…………… 34
- 分解上の注意…………… 34
- 点検・清掃上の注意…………… 35
- 組立上の注意…………… 35
- 部品の購入について…………… 35

故障かな?と思ったら

- 圧縮機編…………… 36
- ドライヤ編…………… 37
- オートドレンナの清掃…………… 38

第二種圧力容器点検記録

関連法規

- 労働安全衛生法に基づくもの…………… 40
- 騒音規制および振動規制法
に基づくもの…………… 40
- フロン排出抑制法に基づくもの…………… 41～43

立体分解図……………

- 圧縮機本体
形式 F153P-10…………… 44
- 形式 F2238P-10 F373CP-10…………… 45
- 形式 F553P-10 F553P-14…………… 46
- 形式 F758P-14 F1108-14…………… 47
- 圧縮機(ドライヤなし)…………… 48～51
- 圧縮機(ドライヤ付き)…………… 52～55

回路図…………… 56

メモ…………… 57

保証と修理サービス……………

- 保証について…………… 58
- 修理サービスについて…………… 59
- お問い合わせに対する
連絡先について…………… 59

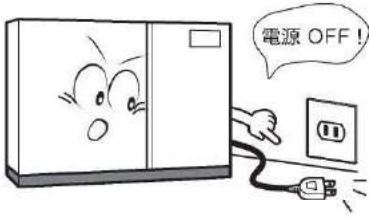
安全上のご注意

ここに示した内容は、安全に関する重大な内容ですので、ご使用前に、よくお読みのうえ正しくお使いください。



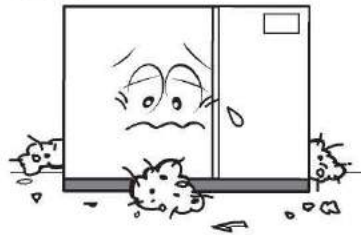
警告

電装箱を開ける場合や配線作業・点検のときは、必ず元電源を切ること。
(電装箱の先の電源を遮断する)
※感電の危険があります。



電源の遮断

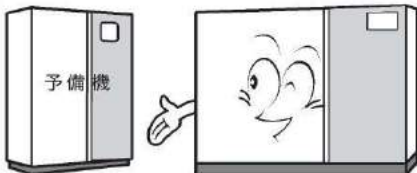
塵埃(鉄粉、木屑、砂塵、粉塵など)の少ない場所で使用すること。
※部品の摩耗・寿命低下や故障の原因となります。



塵埃のない
場所で使用

重要設備等に使用される場合は、圧縮機の予期せぬ停止に備え、必ず予備機やそれに替わる装置および安全装置を装備してください。

※重大な損害を与える危険があります。



予備機
の準備

腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・亜硫酸ガスなど)のない場所に設置してください。
※圧縮機本体・セット部品・空気タンクの発錆・腐食・寿命低下・破損・破裂の原因となります。



腐食ガスの
ない場所

屋外には設置しないこと。

※本製品は耐水構造になっていません。

電気系統に雨水がかかると漏電や火災事故を起こすおそれがあります。



屋外設置禁止

人体に有害なガスがない場所に設置する。

※有害なガスがコンプレッサで圧縮され吐出された場合、人体に重大な障害が起こる可能性があります



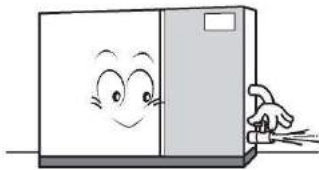
設置禁止

安全上のご注意

警告

点検・整備を行う場合には空気タンクの圧力を必ず放出し圧力がないことを確認してから実施してください。

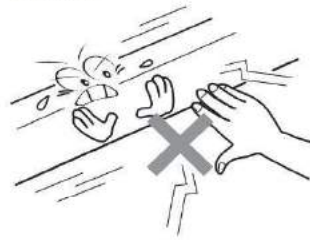
※部品が圧力で飛び怪我をすることがあります。



圧力確認実施

元電源が入った状態で回転部(ブリー・ベルト)に手を触れないこと。

※手が巻込まれて大怪我をするおそれがあります。

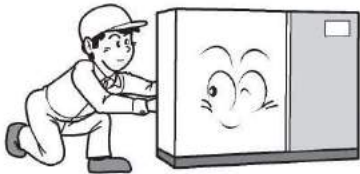


接触禁止

定期的に保守点検を行うこと。

(30～35ページ参照)

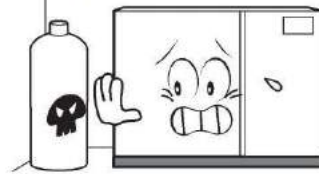
※火災や破損事故の原因となります。



保守点検実施

爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)可燃物のない場所に設置すること。

※爆発・発火の原因となります。



安全な場所に設置する



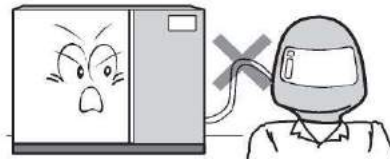
空気以外の
ガスの
圧縮禁止

空気以外の気体の圧縮には絶対に使用しないこと。

※爆発・火災・破損の原因となります。

圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器や人命に関わる機器には使用しないこと。

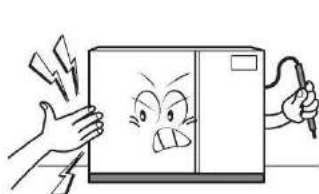
※人体に重大な損害を与える危険があります。



使用禁止

アースの配線を必ず行うこと。

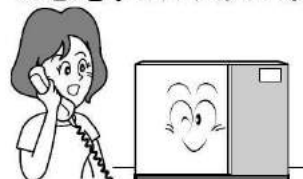
※感電事故や火災の原因となります



アースを
接続する

電気配線工事は電気工事士又は電気工事に依頼すること。

※感電事故や火災の原因となります



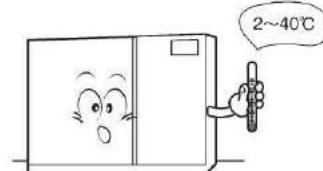
有資格者に
依頼する

安全上のご注意

⚠ 注意

❗ 規定温度で使用する

周囲温度が2～40℃(運転中)の場所で使用のこと。
※2℃以下ではドレン凍結により故障の原因となります。
40℃以上では、寿命低下や破損事故の原因となります。



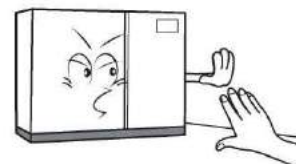
❗ 設置を安定化する

水平(傾斜3°以内)で基礎がしっかりしている場所に設置すること。
※潤滑不良で焼き付きの原因となったり、不安定でベースが浮いていると、異常振動や異音が発生する原因となります。



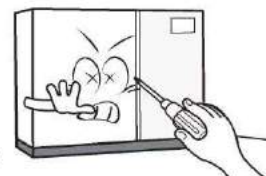
❗ 運転中の接触を禁止する。

運転中や運転直後は圧縮機各部に直接手を触れないこと。
※火傷するおそれがあります。



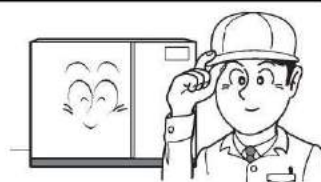
❗ 改造を禁止する

製品の改造はしないこと。
※故障事故や寿命低下の原因となります。改造製品は保証の対象外となります。



❗ 修理を依頼する

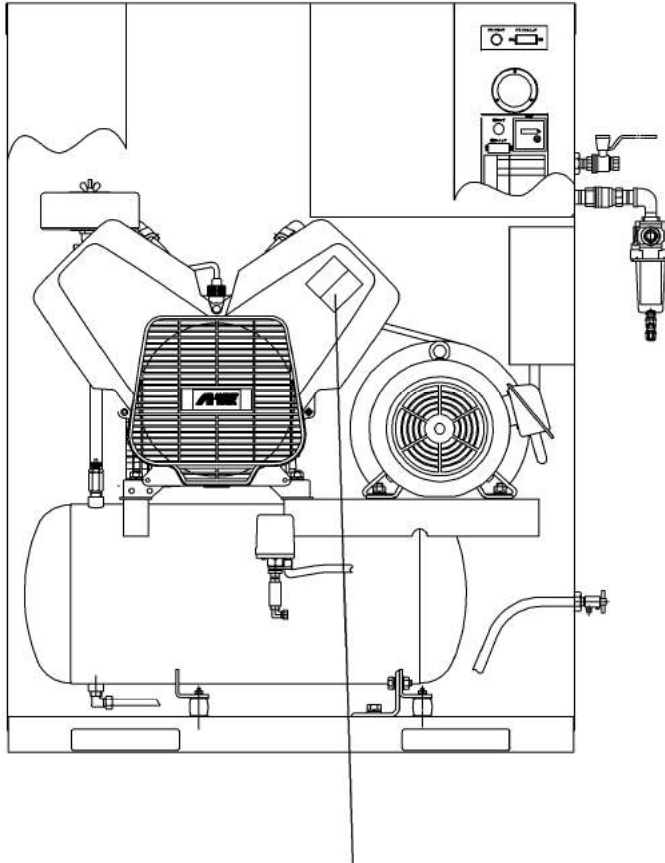
修理は専門の業者に依頼すること。
※修理に不備があると破損事故や寿命低下の原因となります。



安全上のご注意

■警告表示貼り付け位置

警告表示は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。表示銘板は最寄りの販売店又は当社支店・営業所にお申し付けください。
代表形式を図示しておりますので、形式により外観形式と貼り付け位置の一部が異なります。



コード No. 02664010

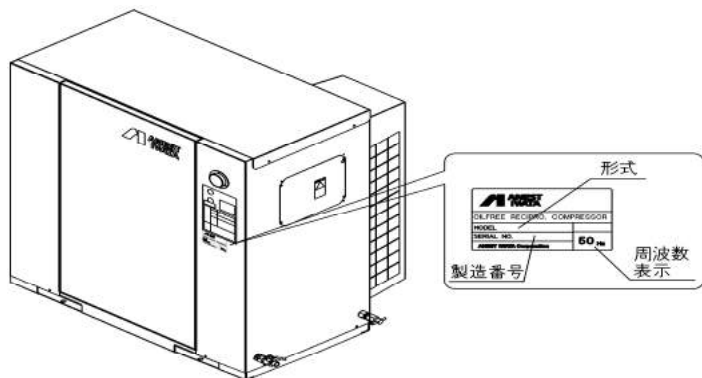
※図はCFP37CF-8.5Dタイプ
機種により貼付位置や銘板が異なります。



コード No. 01707900

現品確認

形式・周波数が注文どおりか、現品を確認してください。



輸送中に変形や破損した箇所がないか確認してください。

■形式の見方

C F P 37 CF - 8.5 D

パッケージ形 ———— C
 潤滑方式(オイルフリー) ———— F
 圧力制御方式 ———— P

※出力が11kWの機種はP27を参照してください。

出力を表します。

表示	15	22	37	55	75	110
出力kW	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11

CF:シリーズ記号

ドライヤ付きの場合
“D”が表示されます。

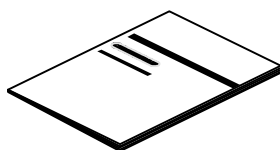
圧力を表します。

表示	8.5	14
圧力Mpa	0.85	1.4

■付属品一覧

付属品が全てあるか、確認してください。

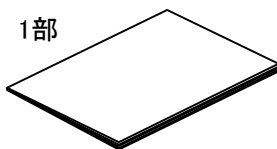
●取扱説明書 1部



●排水パイプ
※ドライヤ付のみ



●第2種圧力容器明細書 1部
(5.5~11kWのみ)

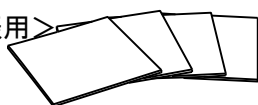


●スナップバンド 1本
2本(5.5kW以上ドライヤ付)

- ・電源コード取付用
- ・5.5kW以上ドライヤ付きのみ
- オートドレンの排水パイプ固定用

●ゴムツツ 4枚

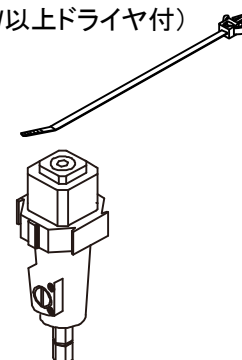
<設置の時使用する防振用>



●穴カバー 2枚
(5.5kWのみ 4枚)



●オートドレンナー
※ドライヤ付のみ

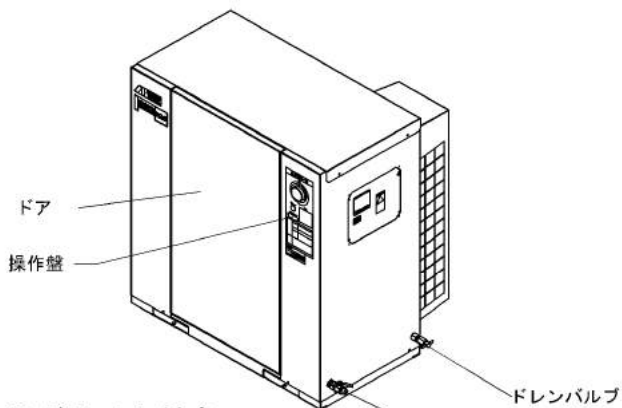


各部の名称

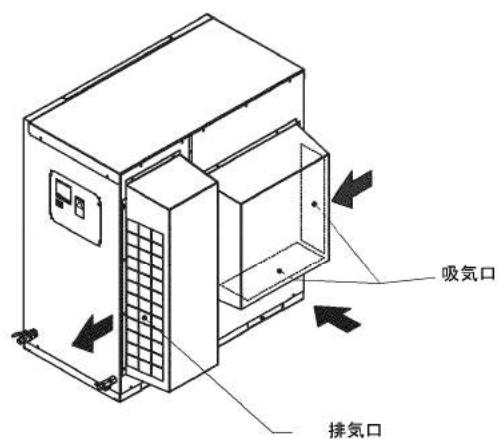
代表形式を図示しておりますので、形式により構成部品や外観形状が異なります。

■外観 (1.5~3.7kW)

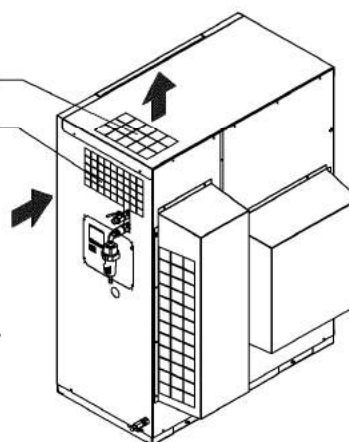
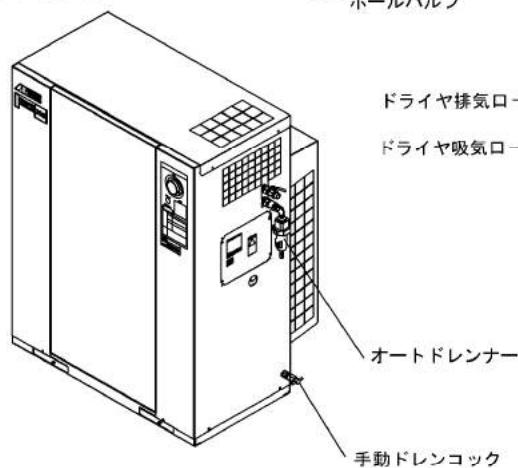
●ドライヤなし 正面



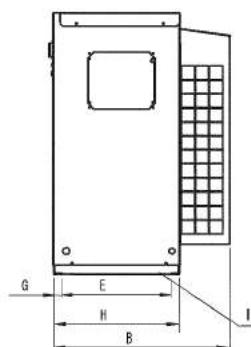
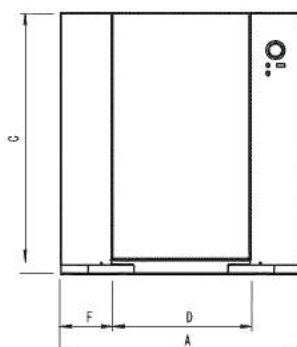
背面



●ドライヤ付き



■製品外形寸法 (1.5~3.7kW)

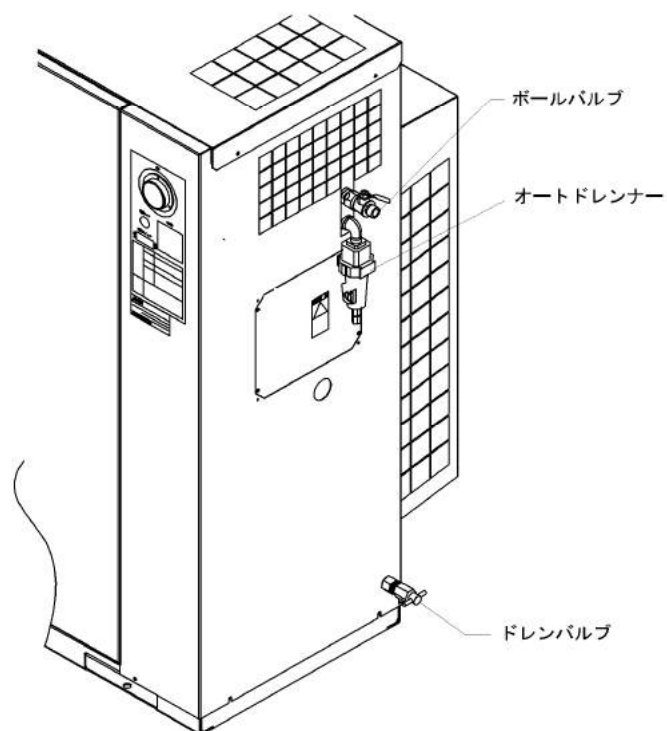
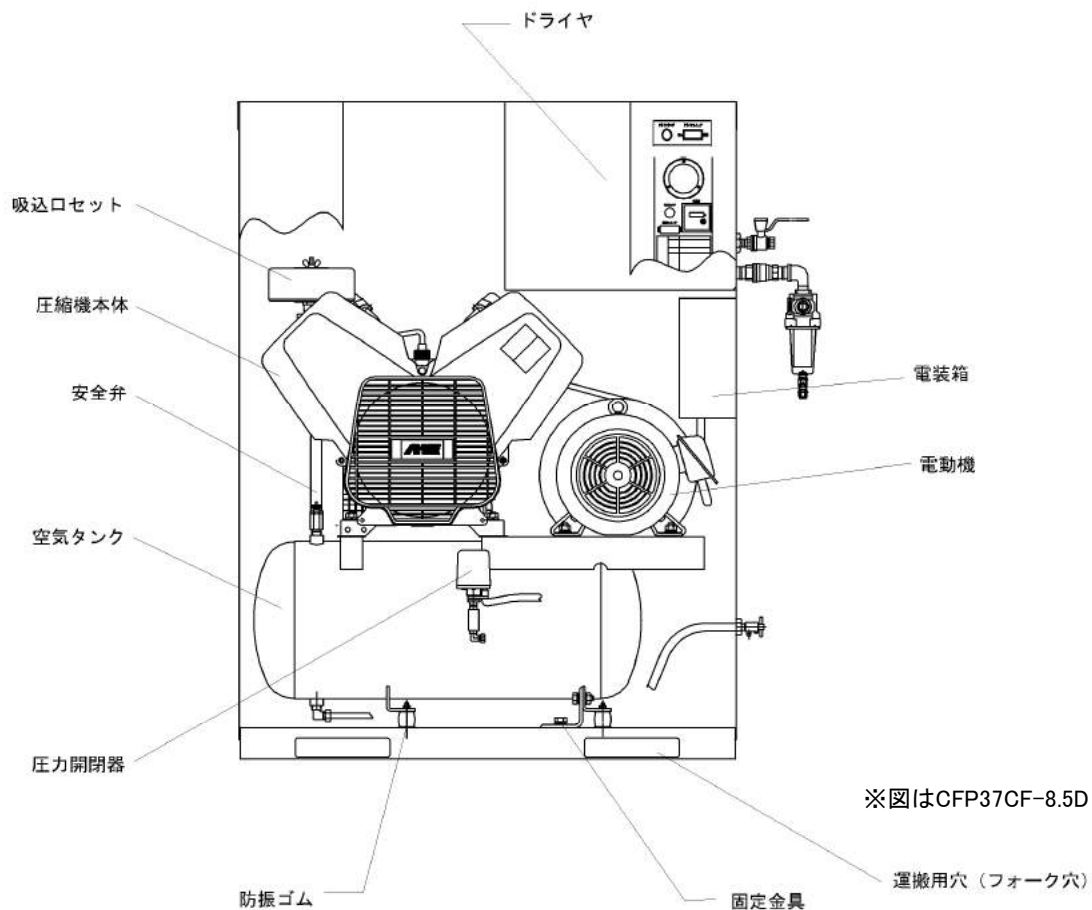


寸法表

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
CFP15CF-8.5	695	585	840	528	400	135	15	430	4- φ 13.5
CFP15CF-8.5D			1000						
CFP22CF-8.5	890	655	985	520	440	185	470		
CFP22CF-8.5D			1120						
CFP37CF-8.5			985						
CFP37CF-8.5D			1200						

各部の名称

■各部の名称 (1.5~3.7kw)

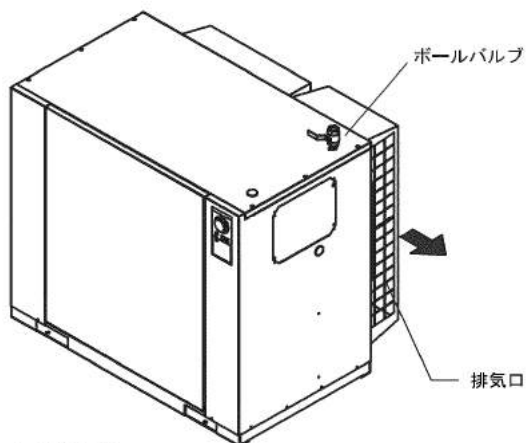


各部の名称

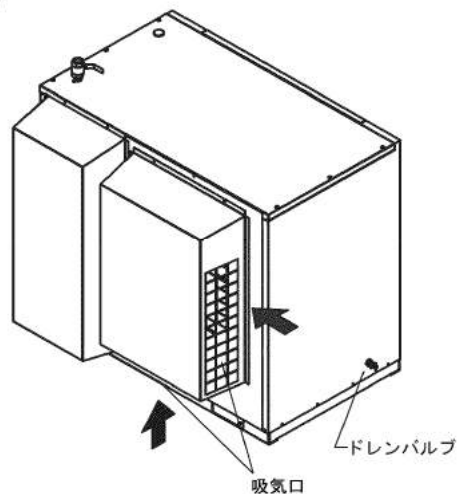
代表形式を図示しておりますので、形式により構成部品や外観形状が異なります。

■ 外観 (5.5~11kW)

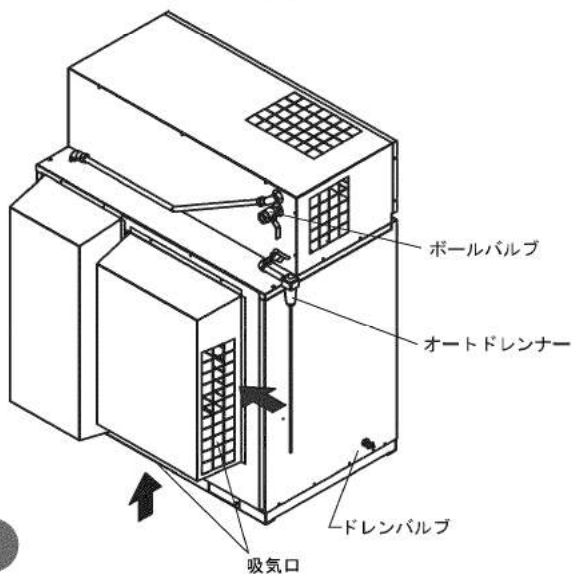
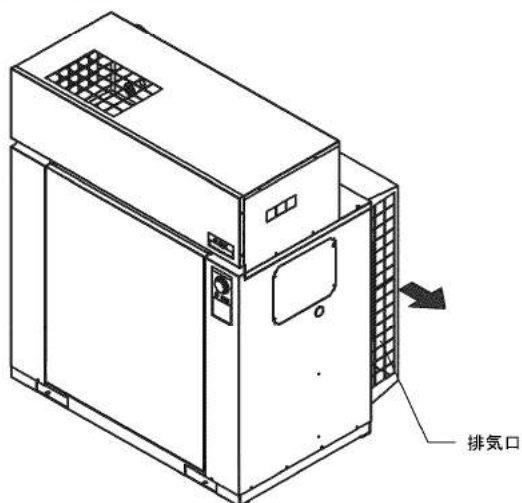
● ドライヤなし 正面



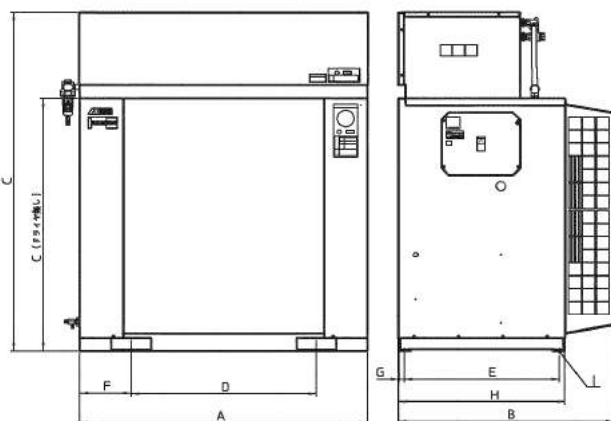
背面



● ドライヤ付き



■ 製品外形寸法 (5.5~11kW)

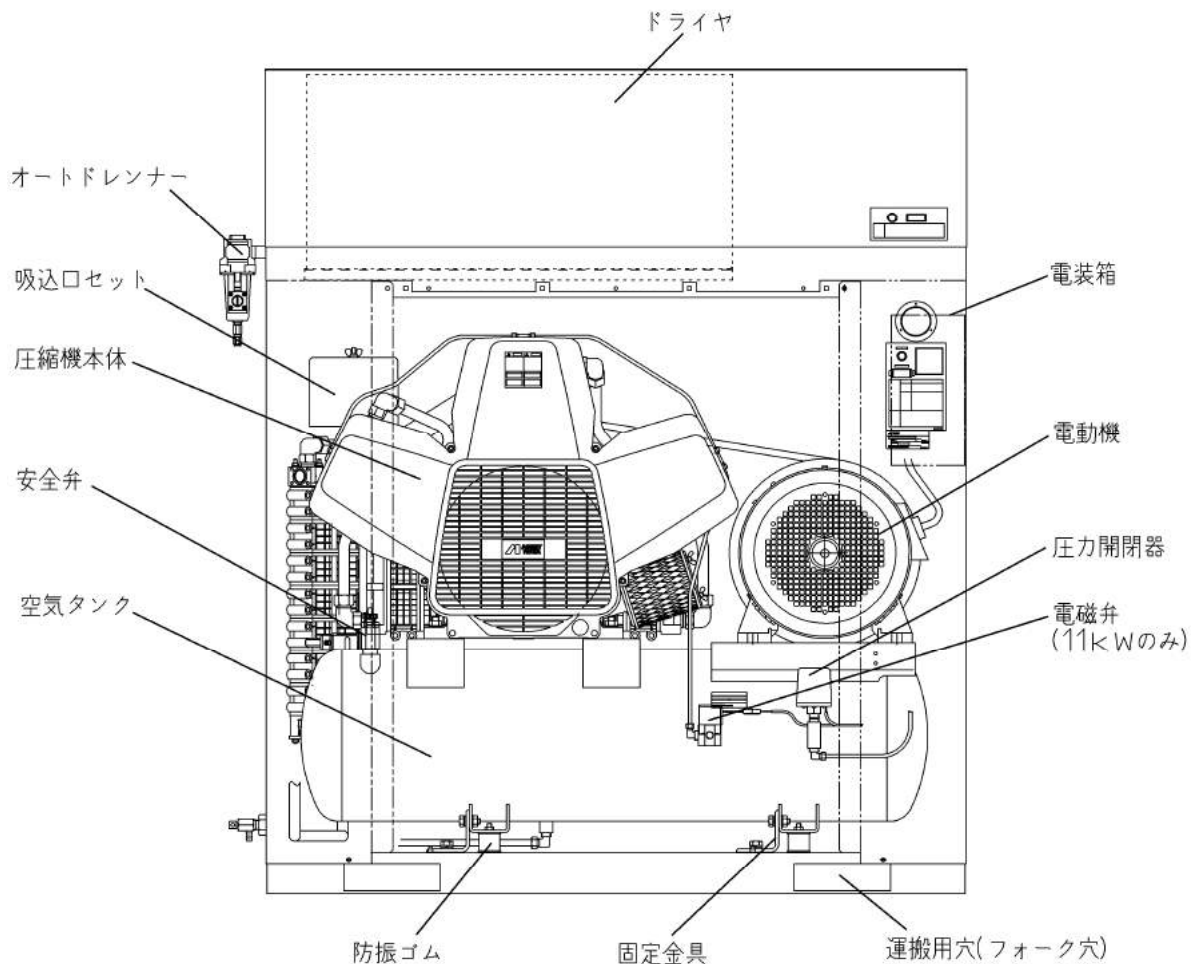


寸法表

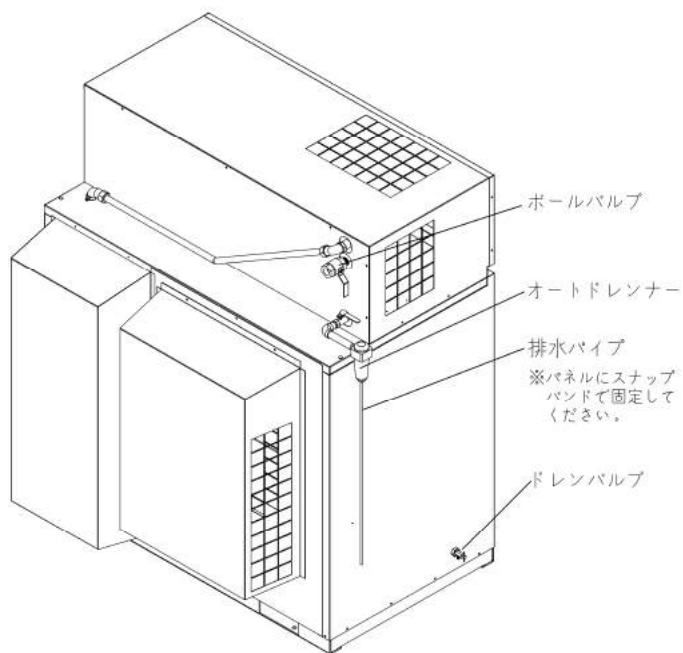
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
CFP55CF-8.5	1170	745	1100	735	515			560	4- φ 13.5
CFP55CF-8.5D,-14D			1530						
CFP75CF-8.5	1230	870	1100	795	615	220	22.5	660	
CFP75CF-8.5D,-14D			1480						
CFP110CF-8.5			1100						
CFP110CF-8.5D,-14D		925	1480		665		710		

各部の名称

■各部の名称(5.5~11kw)



図はCFP110CF-14D
形式により形状は異なります



(ドライヤなしのタイプとドライヤ付きのタイプは
ボールバルブの位置が異なります。)

設置場所

設置には下記の事項を必ずお守りください。

警告

近くに爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)可燃物のない場所に設置してください。

- 不適当な場所では、爆発・発火事故の原因になります。



安全な場所に
設置する

周囲温度が2℃～40℃で腐蝕性ガスのない場所でご使用ください。

- 2℃以下の使用は、起動不良やドレンの凍結により圧縮機各部に作動不良が発生する原因となります。
2℃以下で使用される時は、当社支店・営業所に問い合わせください。

水平で基礎がしっかりしている場所を選び、がたつきのないよう床面に設置してください。

- 設置が不安定ですと、扉の開閉がかたくなったり、異常振動や異音が発生する原因となります。
付属のゴムマットを四隅に敷いていただくと、安定しやすくなります。



設置を
安定化する

- 腐蝕性ガス(アンモニア・酸・塩分・オゾンガス・亜硫酸ガス)の雰囲気での使用は、圧縮機の寿命低下の原因となりますので、換気にご注意ください。

- 40℃以上の使用は、ベアリング劣化やピストンリングの磨耗を早め、寿命低下や破損事故の原因となります。



規定温度で
使用する

設置の際に圧縮機を吊り上げる場合は、圧縮機の質量に十分に耐えられるものをご使用ください。また重心位置を考慮してバランスよく吊り上げてください。

- 質量に耐えられない吊り具を使用したり、バランスを考慮せずに作業すると落下事故の原因になります。



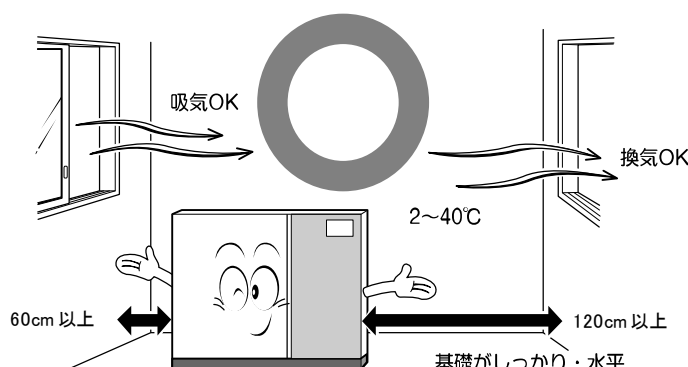
安全な作業をする

室内で湿気の少ない場所に設置してください。

- 雨水がかかったり、湿気の多い場所では漏電や火災事故を起こす危険があります。



水気禁止



換気量について

コンプレッサ出力 [kW]	全体換気量 ドライヤ無し [m ³ /min]	全体換気量 ドライヤ付き [m ³ /min]
1.5	15	20
2.2	25	30
3.7	40	45
5.5	60	70
7.5	80	90
11	120	135

※室温上昇を5℃に抑えた場合です。
※この換気量は静圧が0の時の値です。
実際の選定にあたっては、この数値以上のものを選定してください

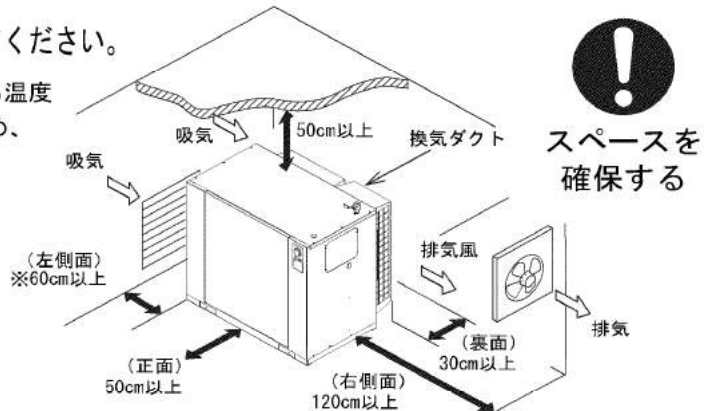
設置場所

お願い

保守・点検が容易にできる場所に設置してください。

- 右側は吸気側への排気風の廻り込みによる温度上昇で圧縮機の寿命低下の原因となるため、120cm以上の隙間を確保ください。

※印 3.7kW以下は30cm以上



・ 特殊な設置について

1. 裏側を壁に密着させる。

排気ダクトと壁の隙間を0~5cm以内としてください。

- 裏側の隙間が6~29cmでは、吸気側への排気風の廻り込みによる温度上昇で圧縮機の寿命低下とドライヤの加圧露点上昇の原因となります。

- 保守・点検時は保守・点検が容易にできる場所に移動してください。

2. 右側を壁に近づける。

排気ダクトと裏側の隙間を100cm以上離すことで、右側の隙間を30cmまで近づけることができます。

ごみやほこりの少ない場所を選んでください。

- 鉄粉・石粉・研磨粉・木屑などを吸い込むと、吸込フィルタの目詰まりによる性能低下や圧縮機内部の異常摩擦を生じさせるなど寿命低下の原因となります。

- ケースフィルタの付いていない形式には多塵環境用としてベアリング保護フィルタをオプションとして用意してありますので、ご利用ください。

2~3台を並列に並べて運転する場合は、隙間を1m以上あけて設置してください。

- 圧縮機どうしが温度影響を受け、圧縮機の寿命低下の原因となります。



スペースを確保する



密着設置禁止

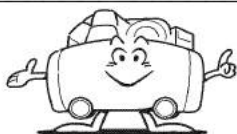


塵埃のない場所に設置する



スペースを確保する

お願い



※次の場合は、必ず最寄りの当社支店・営業所にご相談ください。

- ・ 屋外で使用したい場合。
- ・ 圧力等を変更したい場合。
- ・ 密閉された部屋で使用する場合。
- ・ その他、特殊な用途、場所で使用する場合。



配管

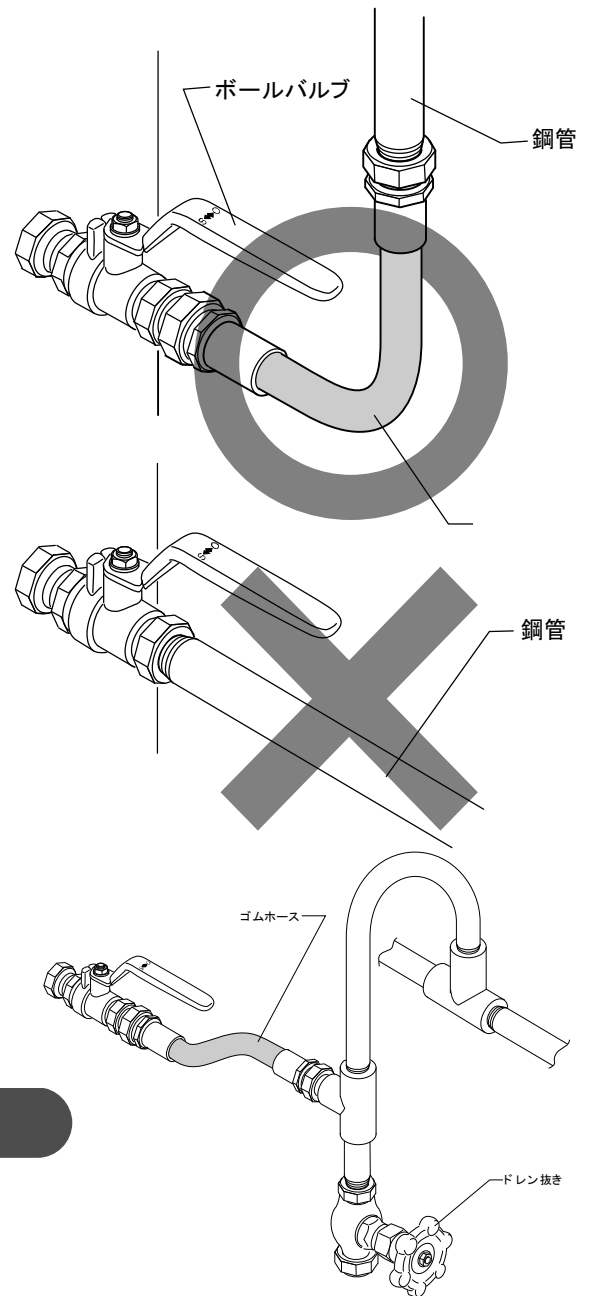
鋼管で配管する場合は、圧縮機のボールバルブと鋼管の間をゴムホースで中継してください。

- 鋼管に直接接続すると、振動により配管に亀裂が生じることがあります。

ゴムホースは耐圧・耐熱用(JISK-6333「酸素用ゴムホース」またはJISK-6349「液圧用高圧ゴムホース」)をご使用ください。

- ホースの両端に使うネジ継手はホースメーカー指定のものをご使用ください。

- 立上り配管がある場合は、必ず下部にドレン溜りとドレン抜きを設けてください。



■2台以上の並列設置

圧縮機を2台以上同一配管上で運転する場合、下記のような運転方法にすることもできます。

- 全ての圧縮機を均等に運転する。
 - 主運転と予備運転に分けて運転をする。
- ※上記の運転方法につきましては、改造を伴います。

詳しくは、最寄りの当社支店・営業までお問い合わせください。

※特別の配慮をせずに2台以上を同一配管上で運転すると、圧縮機制御装置の微妙な圧力差により1台が常に運転し、運転負荷が集中してしまう場合があります。

配線

警告

- 配線作業は、必ず元電源を切ってから行ってください。
※感電の危険があります。
- 電気配線工事は、電気工事士または電気工事店に依頼してください
※感電や思わぬ事故の危険があります。
- 電源は下表容量の漏電遮断器を通して、1台ごと単独に接続してください。また配線の容量に従ったケーブルを必ずご使用ください。
※加熱による火災の原因となります。



電源の遮断 有資格者に
依頼する

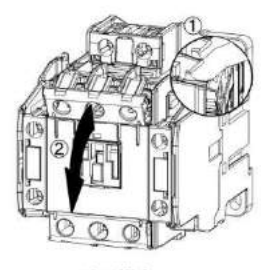
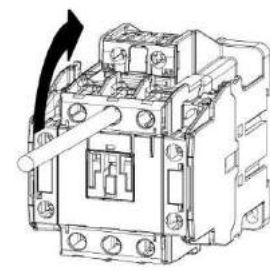
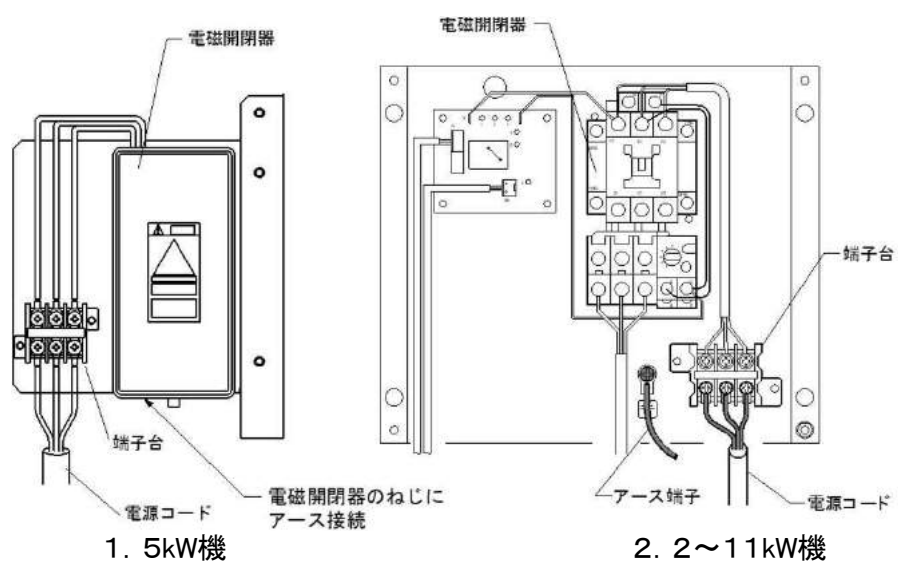
配線容量は次のとおりです。

- 配線が長すぎたり、規定より細い場合には、電圧が低下し電動機が起動しなかったり、加熱して焼損の原因となります。
- 右表の線の太さは、キャブタイヤケーブルで長さが20m以下を基準としたものです。
- 元電源と圧縮機の間には電源保護用の漏電遮断器を通して配線してください。

出力 (kW)	電源	配線容量		
		配線の最小太さ	アース線の最小太さ	漏電遮断器定格電流
1.5	3相 200V	1.25mm ²	2.0mm ²	30A
2.2	3相 200V	2.0mm ²	3.5mm ²	40A
3.7	3相 200V	5.5mm ²	3.5mm ²	60A
5.5	3相 200V	5.5mm ²	5.5mm ²	75A
7.5	3相 200V	14mm ²	8.0mm ²	125A
11	3相 200V	14mm ²	8.0mm ²	125A

電源コードは電装箱内にある端子台の端子に、ゆみや外れがないようにしっかりと接続してください。アースの接続もしっかりしてください。電磁開閉器の端子カバーは図のように取外し、配線後に再度取付けてください。

注. 漏電遮断器定格は、内線規程3705節による



※端子カバーの取外し方

- 接続が不完全ですと接続部が加熱したり、電動機の焼損事故の原因となります。
- 端子台の端子ねじサイズは右表を参照ください。
- アースの接続位置は、形式により異なります。

出力 kW	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11
電源コード端子	M4				M5		
アース端子	M5						

配線

警告

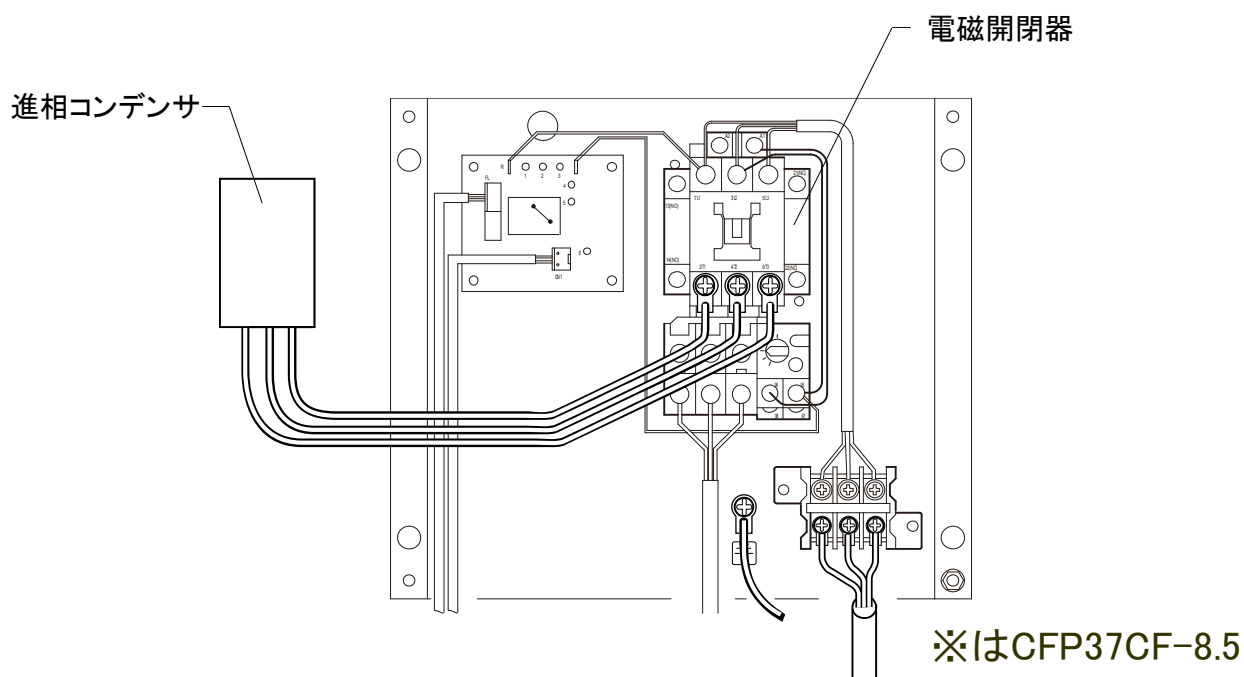
- 漏電防止のため、アースは必ず取り付けてください。
アース取付ネジは、上記の位置に用意してあります。
※感電や火災の原因となります。



アースの接続

進相コンデンサを使用する場合は電磁開閉器の二次側(電動機側)でサーマルリレーに進相電流を流さない所に接続してください。また電磁開閉器は1ランク大きいものに変更してください。

- 電源側に接続すると、欠相の場合、電磁開閉器のバタツキなどを発生し、接点やコイルの焼損の原因となります。



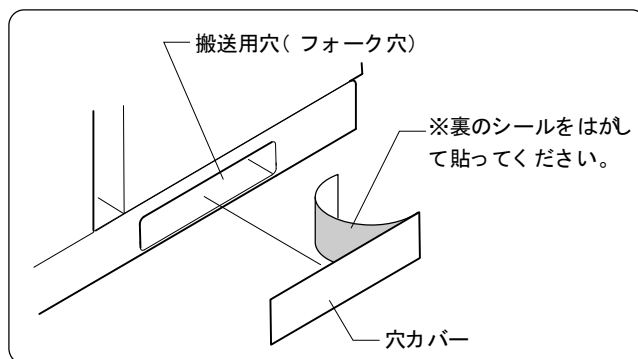
試運転

■ 準備

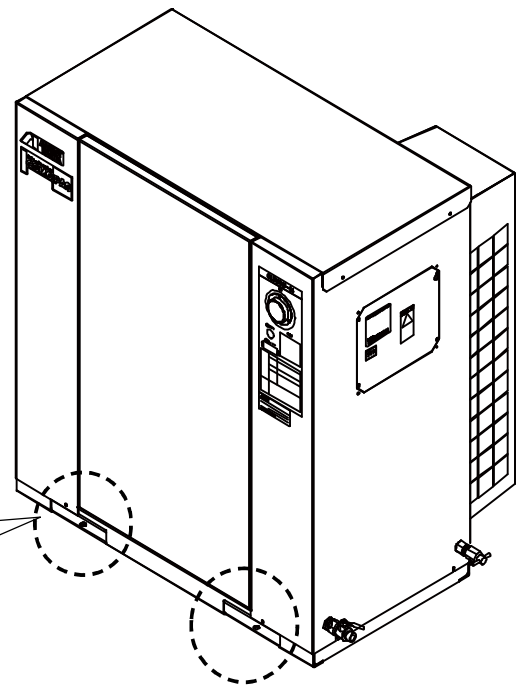
● 穴カバーの取り付け

設置箇所が決まりましたら搬送用穴(フォーク穴 2箇所)を付属品の穴カバーでふさぎます。

※穴をふさぐことで消音効果が得られます。

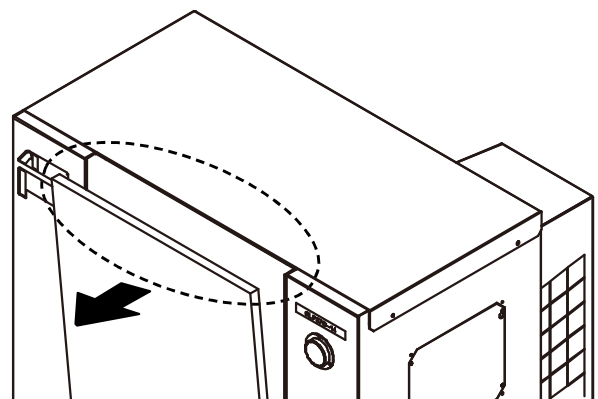
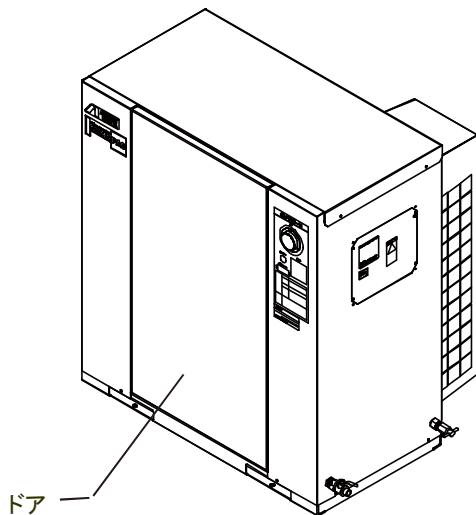


※5.5kWは背面にも穴カバーをしてください。



● ドアの開け方

(1)ドアはドア横上部を手で引いて開けます。



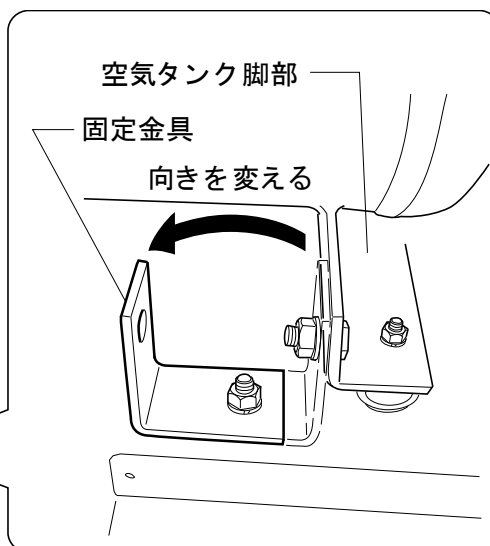
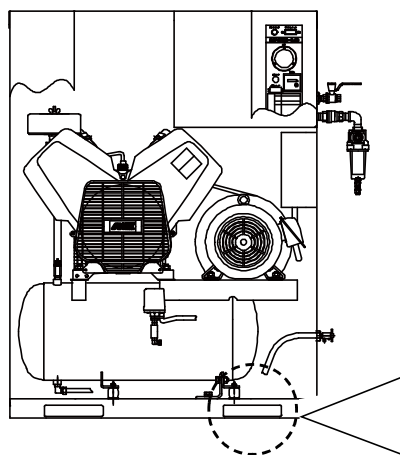
※ドアを開けるときは
矢印の方向へ引いてください。

試運転

■ 固定金具の再固定

空気タンク脚部の固定金具を右のように隙間を開けて再固定してください。

● 固定金具のスライド穴を塞ぐ事で騒音低減効果があります。



※5. 5kW以上は 2か所固定

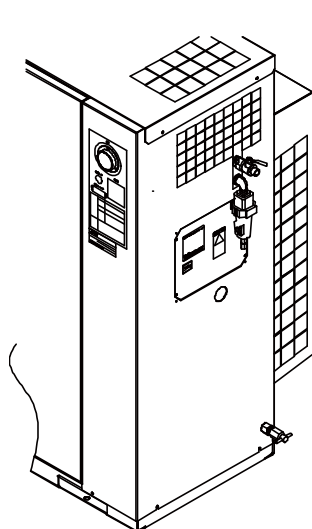
⚠ 注意

固定金具をそのまま運転すると異常振動が発生し各部に亀裂や損傷が生じる原因となります。固定金具は、必ずタンク脚から外して向きを変えてください。

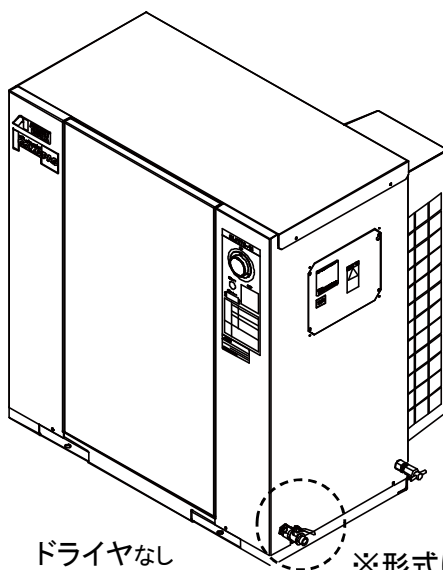


外し忘れ禁止

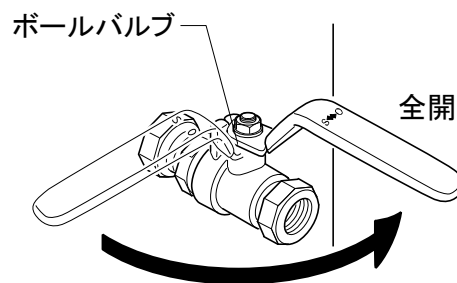
● 試運転を実する前にボールバルブを全開にしてください。



ドライヤ付き



ドライヤなし



※形式によりボールバルブの位置は異なります。

⚠ 警告

● 運転をする場合は、配線作業のために外した電気機器のカバーや蓋を必ず元に戻して運転をしてください。また、パッケージのドアも元に戻してください。※感電やショートによる火災の原因となります。※思わぬけがの原因となります。



運転の禁止

試運転

運転前に空気取り出し用のボールバルブを全開にしてください。

■ドライヤなしの場合

元電源を入れます(図-1)

- ①電源ランプが点灯することを確認します。
- ②運転スイッチを運転側に押してください。
圧縮機はただちに始動します。

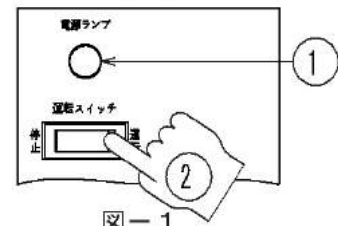
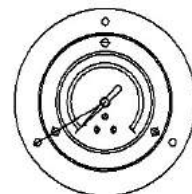
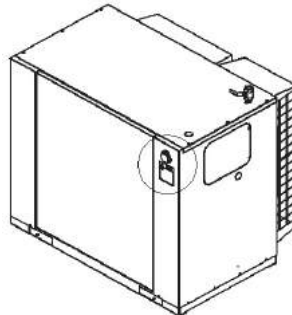


図-1

■ドライヤ付きの場合

元電源を入れます(図-2)

- ①電源ランプが点灯することを確認します。
- ②ドライヤ運転スイッチを運転側に押し、
ドライヤが運転することを確認してください。

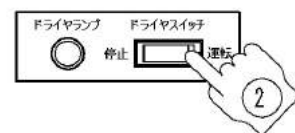
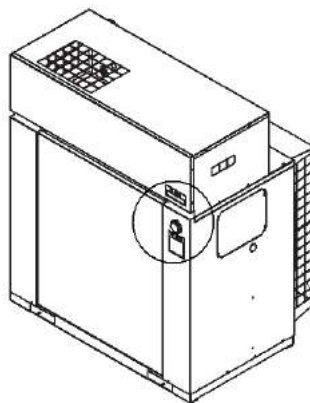


図-2

※確認方法

正面右のドライヤパネル開口部から運転ランプの点灯を確認します。
正面左のドライヤ吸気開口部からドライヤ冷凍機の音・振動を確認します。

- ③ドライヤが運転していることを確認し、
3分以上してから圧縮機の運転スイッチを運転側に押してください。

※ドライヤの機能が安定するまで3分程度時間がかかります。
すぐに圧縮空気が必要な場合はドライヤ運転スイッチを押した後、続けて圧縮機の運転スイッチを運転側に押すことで運転することができます。

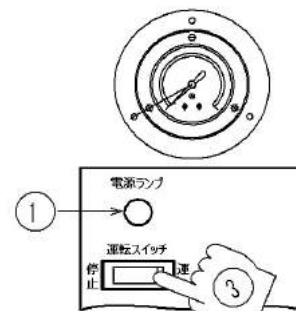


図-2

⚠ 注意

乾燥空気が必要な場合は、この運転方法は行わないでください。



※吐出空気中に水分が含まれます。運転操作禁止

※ドライヤ保護のためドライヤを停止後、ただちに再運転を
するとドライヤ警報ランプが点灯します。
このため、ドライヤを停止してから3分以内はドライヤを
再起動しないでください。

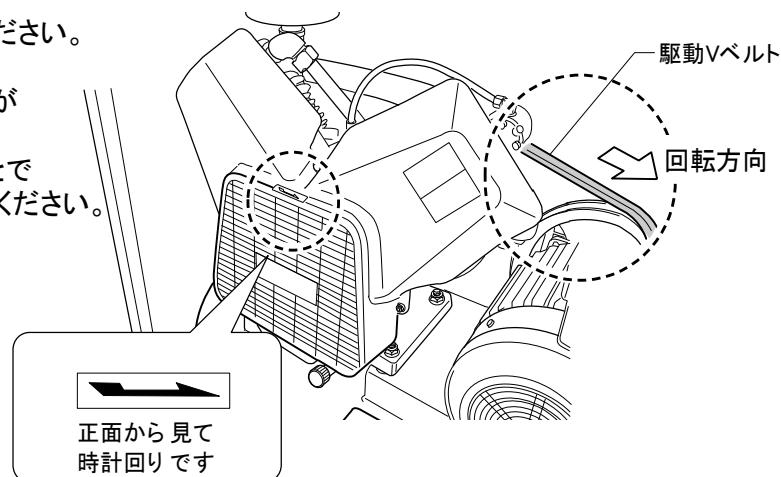
上記の操作を行いドライヤ警報ランプが点灯してしまった場合、
一度ドライヤ運転スイッチ及び圧縮機の運転スイッチを停止に
し、3分以上待ってから再度ドライヤ付の運転方法に従って操作
することにより、ドライヤ警報ランプは点かなくなります。

試運転

■回転方向の確認

数秒間運転させて回転方向を確認してください。

- 元電源が入っている時は、電源ランプが点灯します。
その後運転スイッチを運転側に押すことで運転スイッチが点灯することを確認してください。
- 回転方向は図のとおりです。
- 形式により回転方向銘板の貼り付け位置が異なります。



お願い


正しい回転方向で運転してください。

※回転方向が逆ですと圧縮機の冷却が行なわれず、過熱により圧縮機の寿命低下及び破損の原因となります。




回転方向の確認

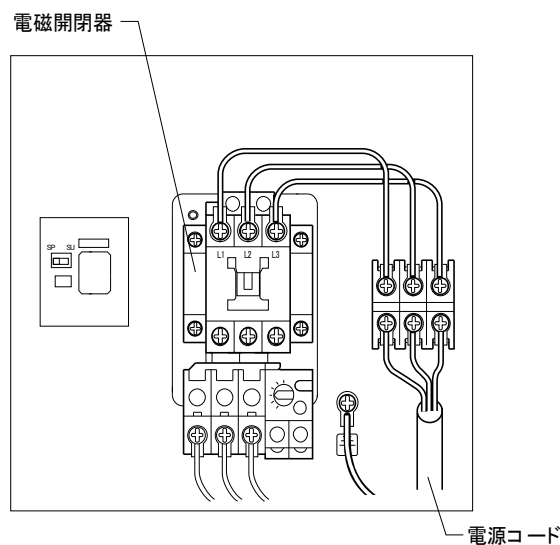
回転方向が逆の時は端子台の端子に接続した電源コード3本のうち2本を入れ替えてください。

**警告**

- 配線の入替え作業は、必ず元電源を切って行ってください。
※感電の危険があります。

**電源の遮断**

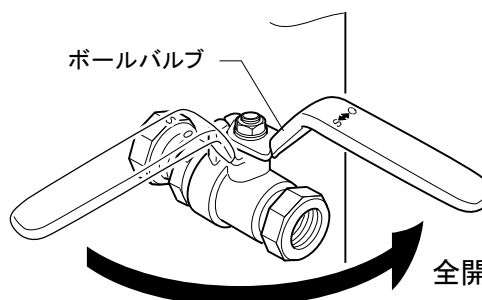
- 端子台の端子に接続した電源コード3本のうち、どれか2本を入れ替えて、しっかりと端子を締め付け結線してください。そして、回転方向が正しくなったことを確認してください。



■無負荷運転の実施

- 圧縮機の試運転を10分程度行ってください。

ボールバルブは全開のままで行なってください。
異常音や振動がないか確認してください。

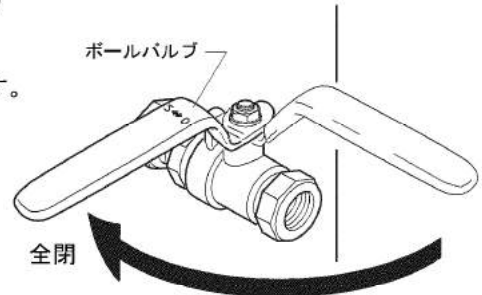
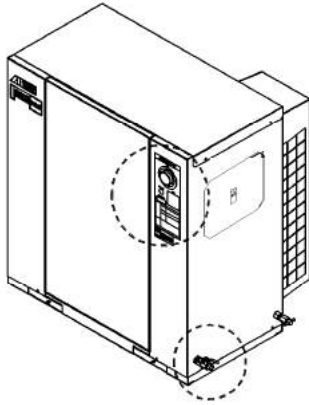


試運転

■ 制御圧力の確認

制御圧力を確認してください。

- ボールバルブを閉じると操作パネルの圧力計の針が上昇します。
- 圧力計の針が制御圧力で作動することを確認してください。



圧力制御機器の設定圧力

設定圧力	最高圧力		0.85	1.4
	MPa	MPa		
制御圧力	作動圧力=上限圧 (圧縮運転を止める)	0.85	0.85	1.4
	復帰圧力=下限圧 (圧縮運転を始める)	0.7	0.7	1.15
安全弁	吹き出し圧力	0.95	0.95	1.48

※制御圧力、安全弁の設定圧力は上記のとおりです。

作動圧力	ボールバルブを閉じたまま圧縮を行うと、作動圧力に達したとき圧縮運転を停止します。
復帰圧力	作動圧力に達したあとボールバルブを開いて、圧力を徐々に下げたとき復帰圧力で圧縮運転を再開します。

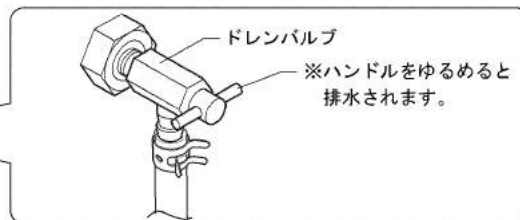
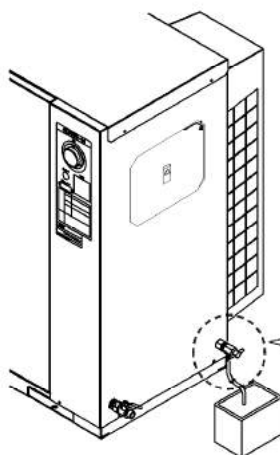
■ タンクドレンの排出確認

タンクドレンの排出確認をしてください。

- タンクに制御圧の中間以上の圧力が貯まった時ドレンバルブのcockを開いてタンクのドレンが排出されるのを確認してください。

※納入初期の試運転時はドレンの溜まりが少ないため、空気のみ放出となることがあります。

※ドレンバルブの位置については、各出力毎の各部の名称のページを参照して下さい。



※図はドライヤなし

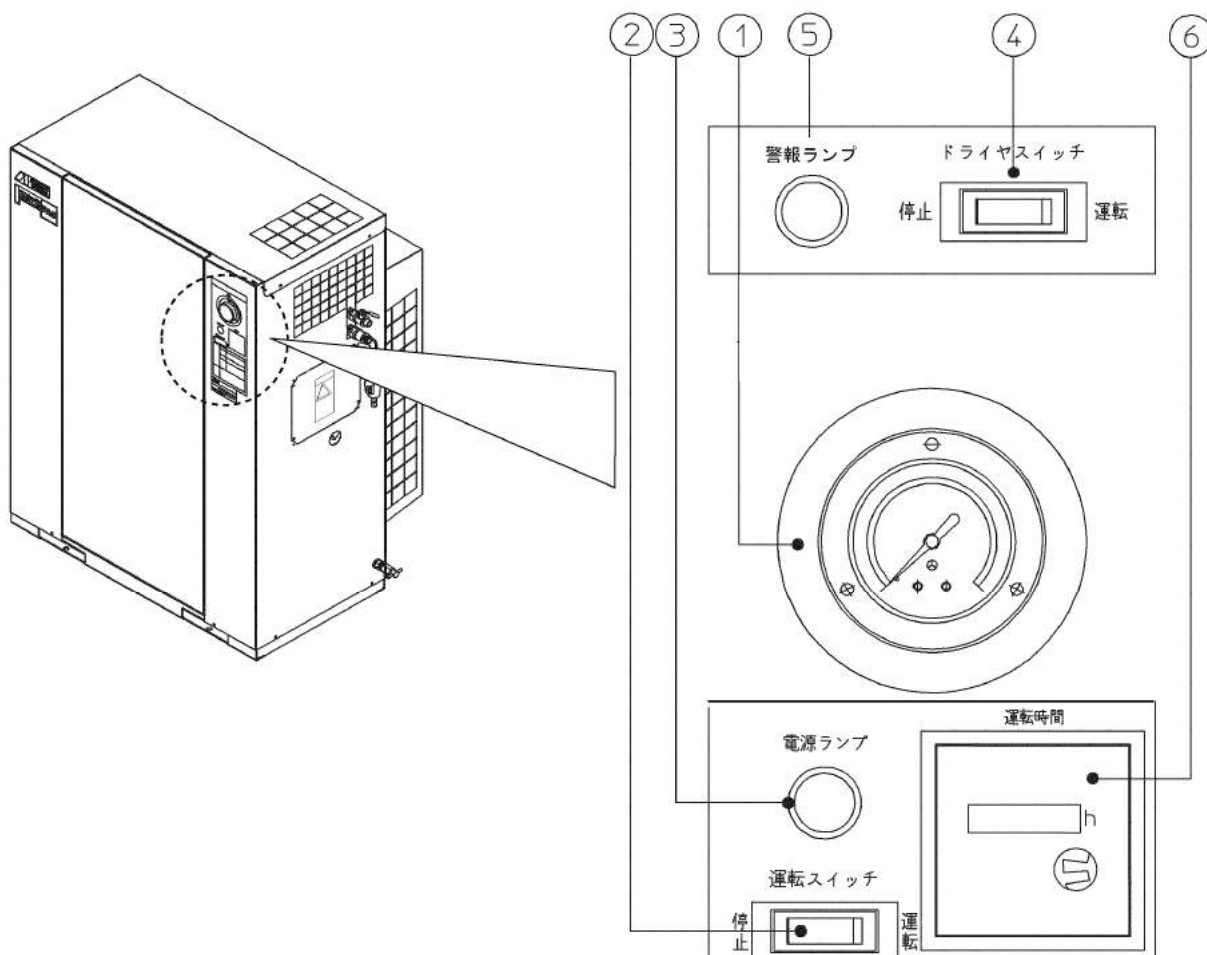
🏠 お願い

本機はオイルフリー圧縮機のため基本的にドレンには油分を含みませんが、ご使用の環境によっては、吸い込む空気中の油分を濃縮してしまうことにより、油分が混入する場合があります。ドレンは公害などの問題にならないように処置することをお願いいたします。

運転操作

■ 操作盤 (1.5~3.7kW)

操作盤の取付機器および表示内容を説明します。



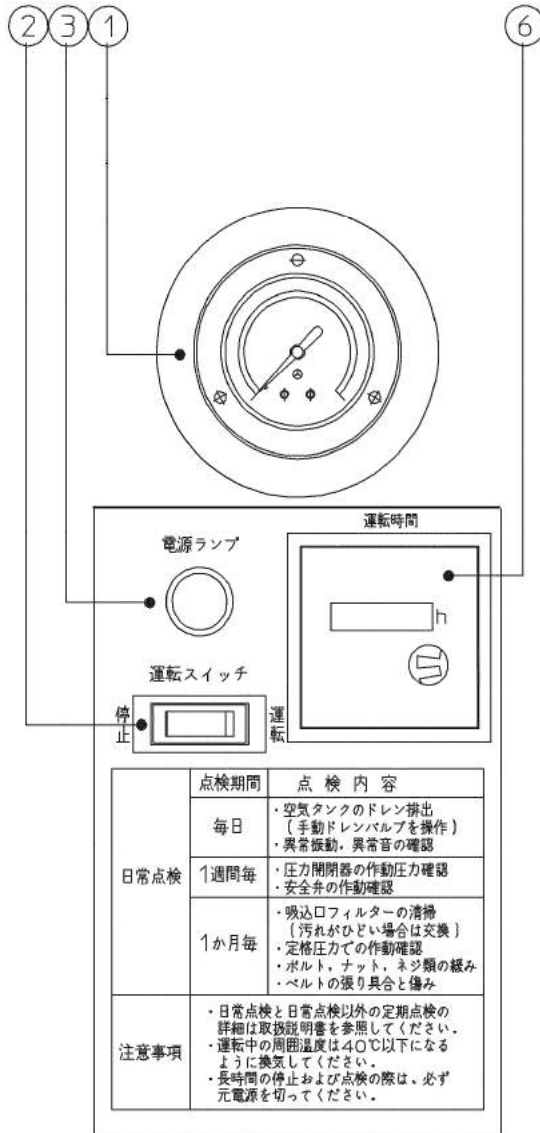
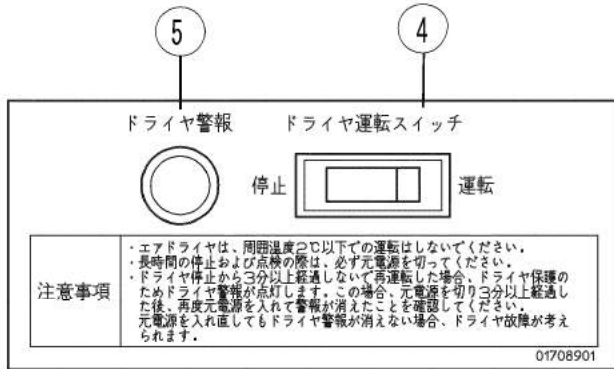
- ① 圧力計 ----- 空気タンク内の圧力を表示します。
- ② 圧縮機運転スイッチ ----- 圧縮機を運転・停止させます。
- ③ 電源ランプ ----- 元電源から通電している時、点灯します。
- ④ ドライヤ運転スイッチ ----- ドライヤを運転・停止させます。
※ドライヤなしの機種には付いていません。
- ⑤ ドライヤ警報ランプ ----- ドライヤに異常が発生した時、点灯します。
※ドライヤなしの機種には付いていません。
- ⑥ 時間計 ----- 運転時間を表示します。
(3.7kWのみ)

	点検期間	点検内容
日常点検	毎日	・空気タンクのドレン排出 〔手動ドレンバルブを操作〕 ・異常振動、異常音の確認
	1週間毎	・圧力開閉器の作動圧力確認 ・安全弁の作動確認
	1か月毎	・吸込口フィルターの清掃 〔汚れがひどい場合は交換〕 ・定格圧力での作動確認 ・ボルト、ナット、ネジ類の緩み ・ベルトの張り具合と傷み
注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・日常点検と日常点検以外の定期点検の詳細は取扱説明書を参照してください。 ・運転中の周囲温度は40℃以下になるように換気してください。 ・長時間の停止および点検の際は、必ず元電源を切ってください。

運転操作

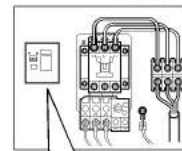
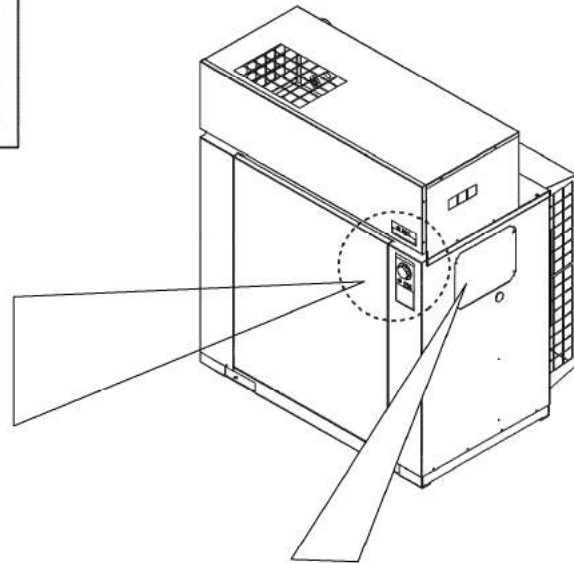
■操作盤 (5.5~11kW)

操作盤の取付機器および表示内容を説明します。

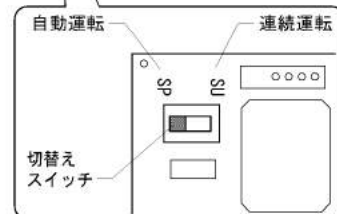


■マニュアルデュアル運転方式

CFP110CF-8.5(D)、-14D機は、使用状況に応じ、自動運転方式(圧力制御方式)と連続運転方式(アンローダ方式)を手動切替にて選択できます。出荷時には、自動運転方式に設定しています。



使用頻度が多く電動機が、停止・始動を頻繁に繰り返す時は、連続運転方式に設定を変更してください。



※頻繁な停止・始動(1分間に1回以上)は電動機や電磁開閉器の寿命を低下させます。

- ① 圧力計 ----- 空気タンク内の圧力を表示します。
- ② 圧縮機運転スイッチ ----- 圧縮機を運転・停止させます。
- ③ 電源ランプ ----- 元電源から通電している時、点灯します。
- ④ ドライヤ運転スイッチ ----- ドライヤを運転・停止させます。
※ドライヤなしの機種には付いていません。
- ⑤ ドライヤ警告ランプ ----- ドライヤに異常が発生した時、点灯します。
※ドライヤなしの機種には付いていません。
- ⑥ 時間計 ----- 運転時間を表示します。

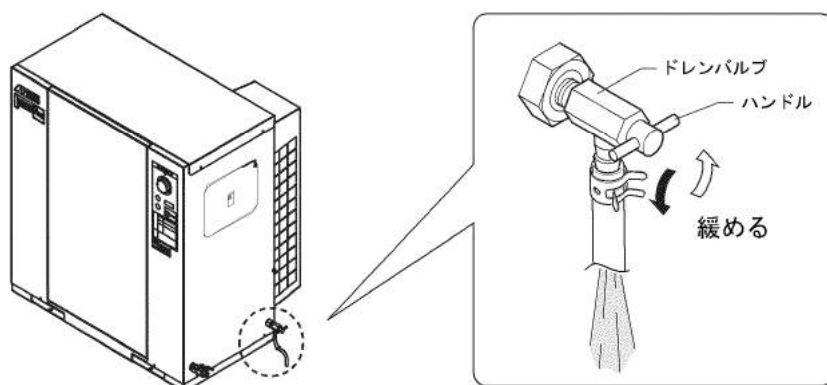
日常運転の管理

■ 運転開始

お願い

- 運転前に空気タンク内の圧力を確認してください。復帰圧力以上の場合は復帰圧力以下に下げてください。

運転前に空気タンクの圧力を確認し、復帰圧力以上の場合は圧縮機の右側面のドレンバルブを開放し復帰圧力以下に下げてください。



■ 運転中

注意

- 運転状態の時は、操作部（運転スイッチ、ボールバルブ、安全弁、ドレン抜き）以外の部分に手を触れないでください。
※ 圧力降下により急に回転することがあり、回転体だけがや高温部での火傷の危険があります。



接触禁止

運転中に異常音（カンカン音や通常と異なる音）や異常振動（目で見て明らかに多い、グラグラする揺れ）が発生した時は、直ちに本機の運転を停止し、原因を取り除いてから運転を再開してください。

注意

- 運転状態で停電となった場合、停電が復帰すると圧縮機は自動的に運転を開始します。同様に運転状態で元電源を切った後、元電源を再投入すると操作盤の運転スイッチは運転側へ押されたままのため自動的に運転を開始するため圧縮機の点検などを実施する場合は、操作盤の運転スイッチを停止側へ押し、停止させた上で、元電源を切ってください。
※ 停電時に圧縮機は、復帰～自動運転を行っても問題はありませんが、自動運転をすることで他に影響がある場合には、元電源を切っておいてください。
※ 元電源投入の際は、事故のないようご注意ください。



圧縮機
再起動時の注意



お願い

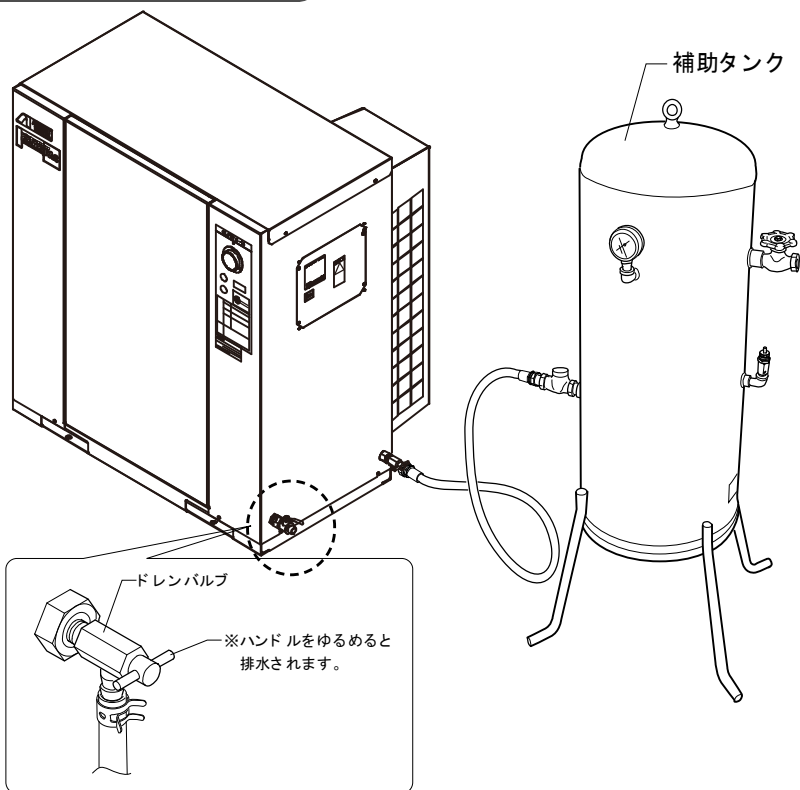
夏期においても運転中周囲温度40℃以上にならないよう、換気に注意してください。※ 機械の故障や寿命低下の原因となります。

日常運転の管理

■ 運転終了

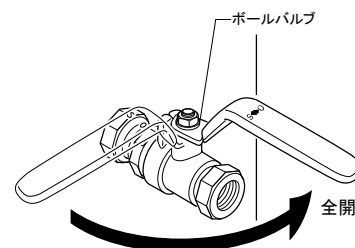
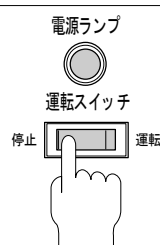
運転終了後、手動のドレンバルブを操作し、空気タンク内のドレンを排出してください。

- 補助空気タンクを接続している場合や気候と運転状態により、空気タンク内にドレンが蓄積することがあります。
- タンク内に錆を発生させる原因となります。
- 冬季には、ドレンの凍結によりドレンパイプ、ドレンバルブの破損原因となります。



作業終了後、運転スイッチを切り、空気タンク内の圧縮空気を完全に放出してください。

- タンク圧力があることを知らずにバルブ類を不用意に開放して、事故が発生する場合があります。
- 圧力計の針上りの原因となります。



**長期間(1週間以上)運転しない場合には、下記内容にて処置ください。
エンプレッサーを正常にお使いいただく為に必ずお守りください。**

【保管場所】…下記のような場所に保管してください。

- 湿気や塵埃(鉄粉・木屑・砂塵・粉塵)の少ない場所。
- 腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・亜硫酸ガスなど)が発生しない場所。

【ドレン処理】…下記処置を行ってください。

- 空気タンク内の圧縮空気が残っている間にドレンバルブを開けてドレンを完全に放出してください。最後に止め弁も全開にして圧縮空気も完全に抜いてください。

※錆の発生・圧力によるシート部変形・摺動部の不具合発生を防ぐことができます。

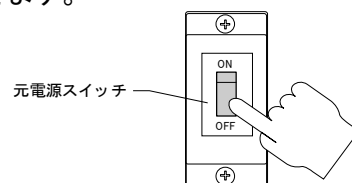
【元電源】必ず切ってください。

【定期運転】…1ヶ月ごとに下記要領にて運転してください。

- (1) 無負荷にて30分運転する。
- (2) 昇圧し制御圧力が正常に作動するか確認する。
- (3) 空気タンク内のドレンを完全に排出し、圧縮空気も完全に放出する。

【お願い】

6カ月以上運転を停止する場合、定期運転処理を行っても異常が発生する場合があります。安全にお使いいただくために、6カ月以上運転を停止させた後に運転を再開する場合はメンテナンスが必要になりますので弊社にお問い合わせください。



保守・点検

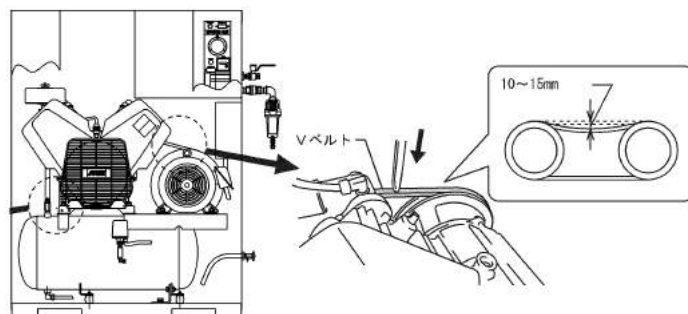
次の点検項目を定期的を実施してください。

点検は、下記期間を基準に実施してください。表に掲げた点検期間は、標準的な使用の場合を想定していますので、使用条件が過酷な場合は、点検期間を早めてください。標準的な使用状況とは、周囲温度は、40℃以下でかつ年間平均温度30℃、運転時間は、年間2500時間です。その他は、設置注意事項によります。

- ◆例えば、24時間連続運転で年間200日稼働する場合の点検期間は、表の半分の期間になります。
- ◆点検・整備は、運転時間または期間のいずれか早い方を基準に実施してください。
- ◆点検基準期間は、保証期間とは異なります。
- ◆点検要領欄の※マーク付は、お客様にて処理することが難しい内容です。購入先販売店又は当社支店・営業所に連絡してください。

■保守・点検一覧表

点検項目	点検整備期間				点検要領
	毎日	1か月毎 200h毎	6か月毎 1250h毎	1年毎 2500h毎	
空気タンクの ドレン抜き	○				点検は25頁を参照。
異常振動・異常音	○				異常のある場合は16、22、36頁を参照。
制御機器の作動 (圧力計・圧力開閉器)		○			異常のある場合は33頁を参照。
ボルト・ナット・ ネジ類の緩み		○			緩みのある場合は、適正な工具にて増し締めをする。
ベルトの 張り具合と痛み		○		○※	電源を切った停止中にベルトガードの隙間からベルトの傷やクラックを確認する。運転開始直後に極端なスリップ音が出ていないか、運転中にバツキやベルトガードとの接触がないか確認する。 ※ベルトの張り加減を確認。スパン中央部分を軽く押さえ10～15mm程(下図)へこむ位にしてください。緩みのある場合は、電動機をスライドさせて調整する。ベルトに摩耗・傷みのある場合は交換する。
フィルタ (吸込口 クランク室)		○		■	エアブローにより粉塵を除去する。(内側から外側に向かってブローする) 汚れがひどい場合は交換する。
圧縮空気の漏れ				○	最高圧力で30分間放置し圧力降下が最高圧力の10%以内であるかを確認する。圧力降下が多い場合は、点検・整備する。
パッケージの内外		○			エアブローでごみ、ほこりを除去する。汚れがひどい場合は期間を短縮する。



保守・点検

	点検項目	点検整備期間						点検要領
		1か月毎 200h毎	1年毎 2500h毎	2年毎 5000h毎	3年毎 7500h毎	4年毎 10000h毎	6年毎 15000h毎	
総合点検	電装品 電磁開閉器 圧力開閉器 電動機		○			■		接点の荒れ、電動機の絶縁抵抗(リード線とアース間の抵抗1MΩ以上)を点検する。 堆積した塵埃を清掃する。 ※不具合があれば交換する。 電磁開閉器は、4年毎に交換する。
	配管部品 接続管 ゴムホース 樹脂チューブ 防振ゴム		○			■		硬化、ひび割れなどを点検する。 異常があれば交換する。 ※ゴム・樹脂チューブは4年毎に交換する。
圧縮機本体周りの点検	冷却ファン		○					点検してクラックなど異常あれば交換する。
	弁セット シリンダカバー			○			■ 弁セット	※弁セットに付着した摩耗粉を除去、清掃する。 清掃不可能な状態ならば交換する。
	○リング・シート ゴムパッキン			○		■		※劣化(弾力なし)や変形あれば交換する。4年毎には、必ず交換する。
	ピストンリング	A			○		■	※磨耗の確認。一部の幅が2.5mm以下の場合には交換する。1mmで限界。
		B		○		■		
	ピストン	A			○		■	※ピストン、シリンダの傷を点検する。 シリンダ段付摩耗等多い場合は交換する。 ピストンリング溝下面の付着物は除去する。
		B		○		■		
	シリンダ	A			○			
		B		○				
	接続棒セット	A			○		■	※小端部グリスを補給する。ベアリング回転状況を確認する。異常があれば交換する。 ※交換については、クランク軸セットでの交換となります。
B			○		■			
ベアリング	A			○		■		
	B		○		■			
空気タンクの点検	空気タンク		○					胴・鏡板などの腐れ、漏れ、ふくれ、クラックの有無を点検する。 ※不具合がある場合は交換する。
	安全弁		○					漏れがないことを確認する。 ※漏れがある場合は交換する。
	圧力計		○					圧力計の指針が圧力0の時0を指しているか確認する。

注1. 表中の記号は○点検 ■は交換を示します。

注2. 法令により事業者は、使用開始後1年以内毎に1回、空気タンクの点検事項を自主点検し、その結果を最低3年間は記録保存しなければなりません。(記録用紙は本取扱説明書の39頁に添付してあります。)

空気タンクの容量が40L未満の場合は法的義務はありませんが、安全上から実施してください。

注3. 点検項目の記号は A:5.5~11kW O.85MPa

B:A以外の形式を示す

注4. その他消耗部品についても、点検整備時に異常があれば新品と交換してください。

基本的には、4年毎に無条件に交換の実施をお願いします。

注5. 保守点検の一覧表で※印のついた項目は、お客様において処置するのが困難な項目です。

購入先販売店又は当社支店・営業所にご連絡ください。

保守・点検

■ドライヤ部分の保守・点検

■全出力共通

点検項目	点検内容	毎日	1か月毎 200h毎	3か月毎 600h毎	4年毎 10000h毎	備考
コンデンサ	フィンのごみ・ほこりの除去			◎		エアブローで除去する
	オイルもれのないこと			◎		
	腐食のないこと			◎		
冷却ファン	回転が円滑なこと	○				
	異常音がないこと	○				
冷凍用圧縮機	異常音がないこと	○				
	潤滑油もれがないこと			◎		
配管	分解・洗浄				○	※お客様では実施できません
オートドレンナー	エアもれ点検	○				
	ドレン排出確認	○				
	分解・洗浄		○			38頁の手順を参照

■5. 5～11kW

点検項目	点検内容	毎日	1か月毎 200h毎	3か月毎 600h毎	4年毎 10000h毎	備考
冷媒温度計 (冷媒圧力計)	冷媒もれの 確認	運転前		○	◎	温度計の指針が周囲温度に近いこと
		運転中		○	◎	温度計の指針がグリーン帯内にあること

◎印はフロン排出抑制法に定められる法定点検項目となりますので必ず実施してください。

点検は目視にて実施してください。点検の結果は記録簿(43ページ)に記載し製品の廃棄または譲渡まで保管してください。

冷凍用圧縮機等からのオイル漏れ等を発見したときは速やかに修理を依頼してください。

修理の依頼はお買い求めの販売店、または当社支店・営業所にご連絡ください。

※の項目は、購入先販売店又は当社支店・営業所にご連絡ください。

◆オートドレンナーは消耗品ですので、保証期間中でも有償となります。交換に備えて前もってご用意されるようお勧めします。

保守・点検

機能点検

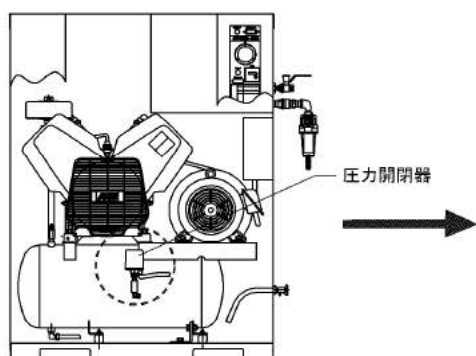
● 圧力制御機器の設定圧力

単位 MPa

形式	最高圧力	圧力開閉器			安全弁 吹き出し 圧力
		作動(止まる)圧力	復帰(動く)圧力	差圧(作動・復帰)圧力	
0.85MPa仕様	0.85	0.85 調整範囲 0.55~0.85	0.7 調整範囲 作動圧と差圧による	0.15 調整範囲 0.15~0.2	0.95
1.4MPa仕様	1.4	1.4 調整範囲 1.1~1.4	1.15 調整範囲 作動圧と差圧による	0.25 調整範囲 0.2~0.3	1.48

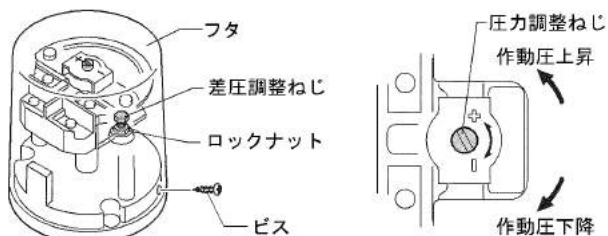
● 圧力開閉器の設定圧力調整

圧力開閉器の設定圧力が変化した時には、**元電源を切ってから** 次の要領で調整してください。
1度で調整できない場合は、作業を繰り返して実施してください。



● 丸型の圧力開閉器

側面にあるビスをゆるめて蓋を多少回して上に取り外します。図の位置にある調節ねじを回すことで差圧は変化せず作動圧を上下に調節することができます。(圧を下げる⇒時計方向に回す)
差圧は、差圧調節ねじをロックナットを緩めて時計方向に回すと広げる(+)、反時計方向で狭くする(-)することができます。調節後はロックナットを締めてください。



警告

● 設定圧力で定められた最高圧力以上に圧力開閉器の設定圧力を調整することはしないでください。

※ 本体破損や火災あるいは爆発事故の原因となります。故障の際には、保証の対象外となります。

圧力の上方への変更を禁止する。



保守・点検

安全弁は圧力制御用の機器が故障し、作動圧力を超えて圧縮機が運転されたときに圧縮機を保護します。

安全弁の設定圧力

定期点検では
設定圧力以下での作動または漏れがない
かを確認します。
安全弁の設定圧力は、右表の通りです。

圧縮機の 最高圧力	安全弁の 設定圧力	該当する安全弁の形式	
		1.5~5.5kW	7.5~11kW
0.85MPa	0.95 ^{0.02} _{-0.05} MPa	SVB-2B-95	SVB-7B-95
1.4MPa	1.48 ⁰ _{-0.03} MPa	SVB-2B-148 (5.5kWのみ)	SVB-7B-148

- 圧縮機の設定圧力範囲内で安全弁が作動したり漏れがある場合は、調整または交換が必要です。

お願い

安全弁の調整は、お買い求めの販売店、または当社支店・営業所まで依頼してください。

※不適切な調整作業によって安全弁の機能を損なう可能性があります。

圧縮機セット・体の分解・点検・組立上の注意

■ 分解上の注意

警告

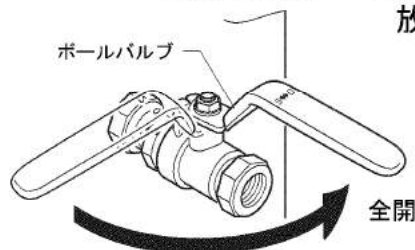
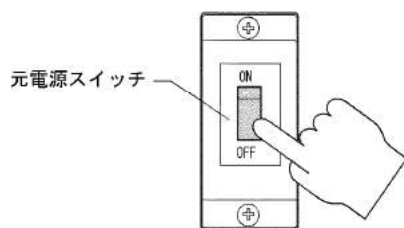
- 元電源を必ず切って作業をしてください。
※急に運転状態になり、けがをする場合があります。空気タンク内の圧縮空気を完全に抜いてから作業をしてください。
※分解時、部品が圧力により飛んでけがをすることがあります。



電源の遮断



圧縮空気を
放出する



- 分解した部品は分解順序に従って、並べて置くと組立作業を間違えずに行うことができます。
- 各部品の摺動面・パッキン面・はめ合い部分を傷つけたり、変形させないように取り扱いには十分気をつけてください。
- 樹脂ファンは、羽根を掴んで回転・ボルトの締め外しを絶対にしないでください。直接的な破損、又は回転中の破損の原因となります。

保守・点検

■点検・清掃上の注意

●フィルタの交換

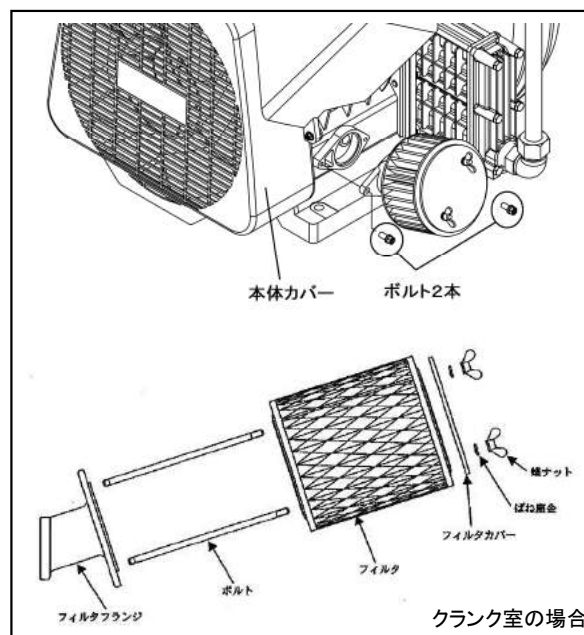
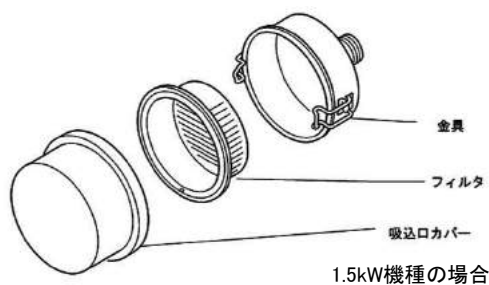
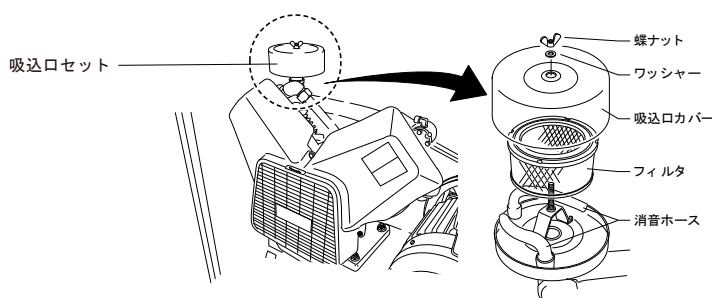
●汚れがひどい場合には交換します。

蝶ナットまたは金具を外し、カバーを開けて中のフィルタを交換します。

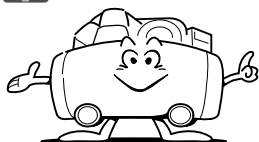
クランク室に取り付けられたフィルタは、作業が困難な場合は図のボルト2本を

外しフィルタフランジごと外した後、フィルタを交換し再度組み付けます。

※スパナやレンチ工具を使用ください。



☀️ ワンポイント



1.5kWを除くフィルタには上下の区別はありません。フィルタを新しくすることで吸気をスムーズにし、吸気効率をアップします。定期的に交換しましょう。

※消音ホースのない機種もあります。

※形式により消音ホースの本数は異なります。

🏠 お願い

消音ホースのある機種の場合、消音ホースは取り外さないでください。
※機械の故障や寿命低下の原因となります。

■組立上の注意

●各部品は軟らかい布などで清掃してから組み付けてください。

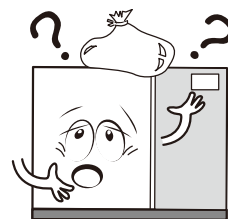
●組み付け完了後、手でプーリーを回し軽く回ることを確認してから運転を開始してください。

■部品の購入について

部品をご購入の際は、本機の形式と付属の立体分解図と部品表を参考にして、必要な部品名と部品番号をご指定のうえ、購入先販売店又は、当社支店・営業所にお申し付けください。

故障かな？と思ったら

● 万一異常が起こった場合には、まず、お客様にて下表を参考にして点検してください。原因が特定できない場合、原因が特定できてもお客様では対応が難しい場合は、お手数ですが、購入販売店又は、当社支店・営業所にご相談ください。



■ 圧縮機編

症状	原因	対応方法
始動しない 又は始動しても 電動機がうる	元電源が入っていない	元電源を入れる
	タンクに圧力が有り圧力開閉器が作動している。	空気タンクの圧力を下げ、始動を確認する。 (作動圧力についてはP33を参照)
	元電源のヒューズが切れている。 または、ブレーカーダウンしている。	症状の『元電源のヒューズ切れ・ブレーカーダウンが発生する』の項を参考に異常のないことを確認しヒューズの交換またはブレーカーを入れなおす。
	電磁開閉器のサーマルプロテクタが作動している。	プロテクタのリセットボタン(ブルーのボタン)を押して解除する。
	電源コードが切断している。	電源コードを交換する。
	電源コードが外れている。 結線場所が間違っている。	P19を参照し、配線を直す。 (P56の回路図通りの配線となっているか確認して直す)
	単相運転となっている。	電源コード・電動機コードを確認し、ネジの緩みや配線を直す 、または、交換する。
サーマルプロテクターが頻繁に作動する	圧縮機の周囲温度が高い (P16の「設置場所」を参照)	圧縮機が設置されている部屋を換気する。 サーマルプロテクターの設定値を5%だけ上げる。
	電圧が低い(起動時の電圧降下大きい)	「始動しない」の電圧が低いに対応方法参照。
	発停の頻度が多い(発停の間隔が1分以内と短い)	補助タンクを追加して発停間隔を1分以上になるようにする。
元電源のヒューズ切れ・ブレーカーダウンが発生する。	元電源のヒューズ・ブレーカーの容量が足りない。	P19を参照し、十分な容量のヒューズ・ブレーカーに交換する。
	電源コードの破損等によるショートが発生した。	電源コードの状態と結線を確認する。 破損していれば交換する。
制御圧力上限に達する前に停止する。	圧力開閉器の設定値が変化している。	P33を参照して、圧力開閉器を調整する。
	圧力計が故障している	新品に交換する。**注意2参照
安全弁が吹く	圧力開閉器の設定値が変化している。	P33を参照して、圧力開閉器を調整する。
	安全弁の吹出し圧力が変化している。	吹出し圧力を確認する。 異常が無い場合は、圧力開閉器を調整する(P33を参照)設定 圧力外で吹く場合は調整する。 (専門の業者に依頼してください。)
	電源コードの接続位置が間違っている。	P19を参照して電源コードを電磁開閉器端子に接続する。
圧力が上がらない 又は圧力上昇に時間がかかる。 (充填時間を確認して範囲外の場合)	ドレンバルブまたは使用しない止め弁の締めを忘れている。	締め直す。締めても漏れる場合は、交換する。
	設備配管から漏れている。	漏えい部を修理する。
	各部の継ぎ手ねじ部から漏れている。	締め直す。
	吸込口フィルタが目づまりしている。	フィルタの清掃又は交換する。
	ベルトがスリップしている。	ベルトの再張りをする。ベルトの傷みが酷いときは交換する。
異常振動又は異常音がする	安全弁から漏れている。 (安全弁のシート部分からの漏れ)	専門業者に依頼して、清掃または新品と交換する。注意3参照
	据付に不良がある。	取扱説明書の設置方法P16に従い水平に据付ける(ベースの下にゴムマットを敷く)。
	部品の取り付けにゆみがある。	部品取付ねじの締め直しをする。
手動ドレンバルブから水も空気も出ない	固定金具を外し忘れている。	固定金具を外す。P22参照。
	ドレンパイプ・ドレンバルブがつまっている。	ドレンパイプ・ドレンバルブを点検・清掃をする。注意2参照
	タンク・ドレン配管の内部が凍結している。	暖めて解凍する。設置環境を確認する。

注意1. 電圧を測定する場合は、感電に十分に注意して事故のないように測定してください。

注意2. 交換・分解前に必ずタンク内の圧力を完全に抜いてください。

注意3. 安全弁を取り外す場合は、空気タンクに圧力がないことを十分確認し事故のないようにしてください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	対応方法
時計が動いていない	時計コードが外れている または切断している。	コードを回路図に従い結線する。または交換する。
	時計が故障している。	時計を交換する。

■ドライヤ編

症状	原因	対応方法
運転しない	電源が接続されていない。	電磁開閉器の1次側電圧を測定し、異常がないことを確認する。 電源が繋がれていなければ正しく接続する。
ドライヤ警報ランプが点灯する	周囲温度が高い。換気不良。	周囲温度を確認し40℃を超える場合は、周囲温度が40℃以下になるよう換気する。
	吸気口が目詰まりしている。	吸気口に付着している物を払い落とす。または掃除機で吸い取り清掃する。
	コンデンサのフィンが汚れている。	コンデンサのフィンを外からフィンを変形させないようにエアブローなどで清掃する。
	ドライヤ停止後、3分以上待たないで運転した。	元電源を切る。再投入後3分以上待ってから始動する。瞬停時もドライヤ警報ランプが点灯する場合があります。同様に処置をしてください。
末端機器に水が出ている	周囲温度が高い。換気不良	周囲温度を確認し40℃を超える場合は、周囲温度が40℃以下になるよう換気する。
	吸い込み孔が目詰まりしている。	吸気口に付着している物を払い落とす。または掃除機で吸い取り清掃する。
	コンデンサのフィンが汚れている。	コンデンサのフィンを外からフィンを変形させないようにエアブローなどで清掃する。
	冷媒の洩れまたは消耗。	運転中冷媒圧力計の針がグリーン帯より上または下にある場合は、冷媒ガスを補充する。
	ドレンの排出配管が詰まっている。	点検・清掃する。
空気が流れない	凍結している。	周囲温度を確認し、2℃を下回る場合は2℃以上にする。

故障かな？と思ったら

■オートドレンナーの清掃

オートドレンナーは、内部にごみ等がたまと作動不良の原因となります。

月に一度は下記の要領で清掃を行ってください。

- (1) コンプレッサを停止させた後、オートドレンナー手前のボールバルブを閉じる。
- (2) 底部の手动コック、又は空気抜きを開いて、ドレンナー内の空気を完全に抜く。
- (3) ボウル組み立てを外す。

ボウルガードのラッチを押しながら、ボウル組み立てを45°回転させ、下に引張って外す。

※一緒にボウルガードも外れますが、ボウル組み立てとボウルガードを外す必要はありません。

※手动コックを緩めた状態で、手动コックを強く押しますとボウル組み立てが外れます。

- (4) 各部品を中性洗剤で清掃する。※有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- (5) 上記工程の逆順序にて組み立てる。

⚠ 注意

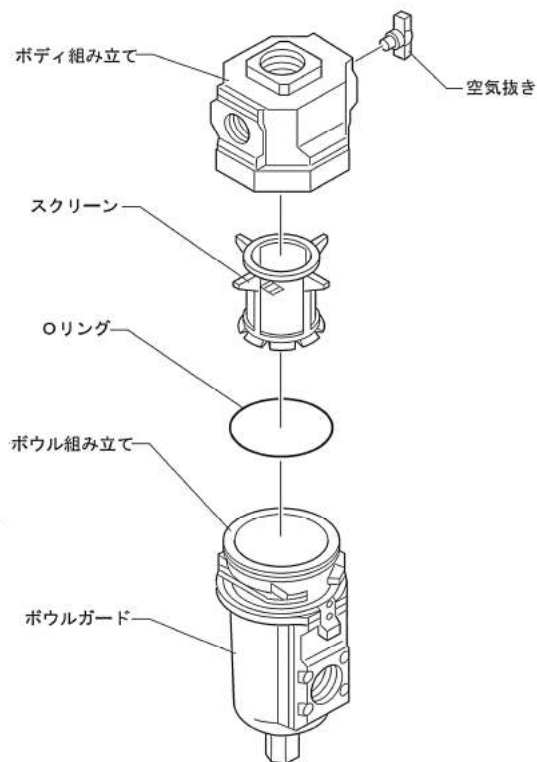
- フロート部は、分解しないでください。
- 各部分は、中性洗剤にて振り洗いしてください。
- ※作動不良や破損事故の原因となります。



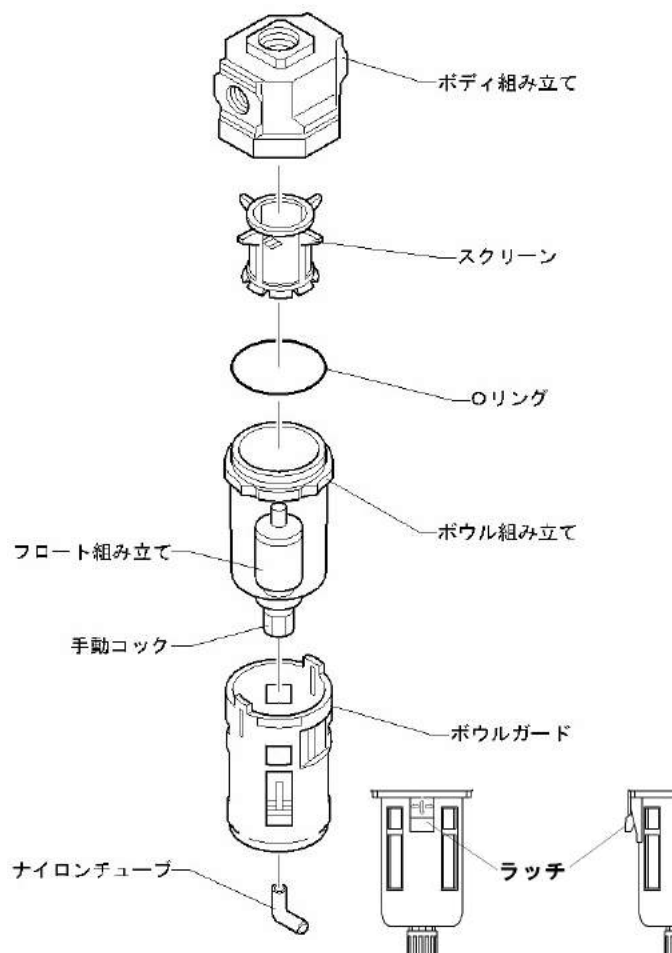
分解禁止

※オートドレンナーは消耗品ですので、保障期間でも有償となります。交換に備えて前もってご用意されるようお薦めします。

①最高圧力1.4MPa仕様



②最高圧力0.85MPa仕様



第二種圧力容器点検記録

注) 記録用紙が満杯になった場合は、同内容の記録票を作成し引き続き記録してください。

1	点検年月日 平成 年 月 日		点検者氏名				事業者印
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
	圧力容器本体 の損傷	1. 胴・鏡板					
		2. 安全弁					
3. 圧力計							
ふ た							
管及び弁の損傷							

2	点検年月日 平成 年 月 日		点検者氏名				事業者印
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
	圧力容器本体 の損傷	1. 胴・鏡板					
		2. 安全弁					
3. 圧力計							
ふ た							
管及び弁の損傷							

3	点検年月日 平成 年 月 日		点検者氏名				事業者印
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
	圧力容器本体 の損傷	1. 胴・鏡板					
		2. 安全弁					
3. 圧力計							
ふ た							
管及び弁の損傷							

4	点検年月日 平成 年 月 日		点検者氏名				事業者印
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
	圧力容器本体 の損傷	1. 胴・鏡板					
		2. 安全弁					
3. 圧力計							
ふ た							
管及び弁の損傷							

関連法規

圧縮機の設置、使用に際しては、安全および公害対策上、法規の適用をうけます。
このため各種の届出、規制基準の遵守義務が生じます。

■労働安全衛生法に基づくもの

●圧力容器安全規制

定期自主検査

・使用者は毎年1回以上次の事項について定期自主検査を行ない、その結果を記録し、3年間保管しておくこと。

- ①本体の損傷の有無。
- ②ふたの締め付けボルトの摩耗の有無。
- ③管および弁(ボールバルブ、安全弁)の損傷の有

空気タンクの第2種圧力容器明細書は再発行できませんので大切に保管してください。

■騒音規制および振動規制法に基づくもの

●騒音規制法および振動規制法により設置届

圧縮機で駆動定格出力7.5kW以上のものは、条例によって定められた指定地域にあっては特定施設として届出が必要です。

なお、各都道府県により基準が異なりますので工場、事業所の所在地の区、市役所および町村役場の公害担当窓口で確認してください。

届け出	・新設届。(新しく設置しようとする場合)
届出期日	・数などの変更届。(圧縮機の台数および種類を変更する場合)
届出場所	・騒音防止方法変更届。(発生騒音の防止方法を変更する場合)
	・設置(変更)の工事開始の30日前に届出る。
	・工事、事業場の所在する区、市役所および町村役場の公害担当窓口。

関連法規

■フロン排出抑制法に基づくもの

平成27年4月1日より施行 ドライヤ付きセットのみ

●法の概要

オゾン層の保護および地球温暖化の防止のために、第一種特定製品(業務用冷凍空調機器)に使用されているフロン類の使用の合理化及び管理の適正化を目的とし、第一種特定製品を使用する第一種特定製品の管理者には定期点検の実施、フロン類の漏えいが確認されたときには速やかに第一種フロン類充填回収業者へ修繕を依頼することを義務付けています。また、第一種特定製品を廃棄する際のフロン類の回収を第一種フロン充填回収業者に委託することを義務付けています。

●第一種特定製品とは

業務用の機器であって、冷媒としてフロン類が充填されているものです。

当社のエアコンプレッサの内蔵型および独立型の冷凍式エアドライヤに冷媒として使用されているフロンガスは、これに該当します。製品の廃棄あるいは整備・修理時等においては、回収破壊処理における其々の義務を遵守してください。

●第一種特定製品の管理者とは

当該製品の所有者が管理者となります。例外として、契約書等の書面において当該製品の保守・修繕の責務を負う者が管理者となります。なお、当該製品の管理業務を委託している場合は、当該委託を行った者が管理者に当たります。

●お客様へのお願い

当社の冷凍式ドライヤを搭載している製品は、第一種特定製品に該当します。製品を使用している、使用していないにかかわらず、冷凍式ドライヤの簡易点検を三カ月に一度実施し、簡易点検の記録を製品の廃棄または譲渡後、三年間保管してください。冷凍式ドライヤを搭載している製品を廃棄される時には、都道府県の登録を受けた第一種フロン類充填回収業者にフロン類の回収委託を必ずしていただきますようお願いいたします。併せてフロン回収後は、廃棄物処理法に基づいた廃棄処理をお願いいたします。

●第一種特定製品の管理者の充填の委託義務等

法第37条

第一種特定製品の管理者は該当製品の整備に際してフロン類の充填する際には、以下のことが必要となります。

- (1)都道府県知事の登録を受けた第一種フロン類充填回収業者に充填作業を依頼すること。
- (2)充填作業終了を確認する際、フロン類の「回収証明書」や「充填証明書」を受け取り保管すること。

関連法規

●行程管理制度(フロン類の引渡し等の委託等を書面で管理する制度)の導入

法第43条、第45条の2、第70条

第一種特定製品の所有者は、『廃棄の際』には、以下のことが必要となります。

(1)都道府県知事の登録を受けた第一種フロン類充填回収業者にフロン類を引き渡すこと。

(2)その際には法律に基づき回収を依頼する書面を交付すること。

(行程管理票:3年間の保管義務があります)

(3)第一種フロン類充填回収業者から交付された取引証明書を保管すること(3年間の保管義務があります)

(4)第一種フロン類充填回収業者から回付された破壊証明書若しくは再生証明書でフロンの処理を確認すること

(5)フロン類の回収、破壊に必要な費用を負担すること。

(6)第一種特定製品を廃棄物業者に引き渡す際、取引証明書の写しを作成し、第一種特定製品と一緒に提出すること。

●整備時のフロン類の回収業務の明確化

法第27条、第39条

特定製品の整備を行う者も、フロン類の回収作業を行うには都道府県知事の登録が必要になります。

(または、フロン類の回収作業を都道府県知事に登録された第一種フロン類充填回収業者に委託しなければなりません)

第一種フロン類充填回収業者は、廃棄時と同様に、回収基準に従ってフロン類を回収しなければなりません。

●解体される建物中における業務用冷凍空調機器の設置の有無の確認および説明

法第42条

建物解体工事を第一種特定製品の管理者から直接請け負おうとする業者は、その建物に、フロン類を含む第一種特定製品が設置されていないかどうかを確認し、その結果を工事の発注をしようとする第一種特定製品の管理者に書面(事前確認書)で説明しなければなりません。

工事を発注しようとする第一種特定製品の管理者はその確認作業に協力しなければなりません。

また、元請業者から事前に説明された書面を三年間保管しなければなりません。

●都道府県知事に廃棄者等に対する指導等の権限を付与

法第48条、第49条、第91条、第92条、第93条

都道府県知事は、第一種特定製品整備者、第一種特定フロン類充填回収業者に加えて、特定製品の廃棄等を行おうとする第一種特定製品の管理者などの義務対象者に対しても、その義務の履行を担保するため、新たに、職員を事務所等に立ち入らせることや、指導、助言、勧告、命令等の、措置を講ずることができることとなります。

●当社における回収破壊処理対応(有料)

(1)回収破壊処理受付:当社支店・営業所にて、第一種フロン類回収業者をご紹介いたします。

(2)第一種フロン類充填回収業者(都道府県登録業者)が出張しドライヤよりフロンのみ回収し持ち帰ります。

(3)持ち帰りましたフロンは一時保管し一定量に達した時点で破壊業者(認可業者)に破壊を委託します。

(4)回収運搬破壊に掛る費用はユーザ様(特定製品廃棄者)にご負担願うことが法制化されています。

(5)ご要請によりフロンの破壊証明書の発行を承ります(有料)

※ 詳しくは、下記におたずねください。

一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構(JRECO)

TEL 03(5733)5311

URL <http://www.jreco.or.jp/>

各都道府県環境部 フロン担当

ご不明な点、並びにご用命は当社支店・営業所にお申し付けください。

立体分解図

■ 圧縮機本体 (F153P-10)

● 部品表

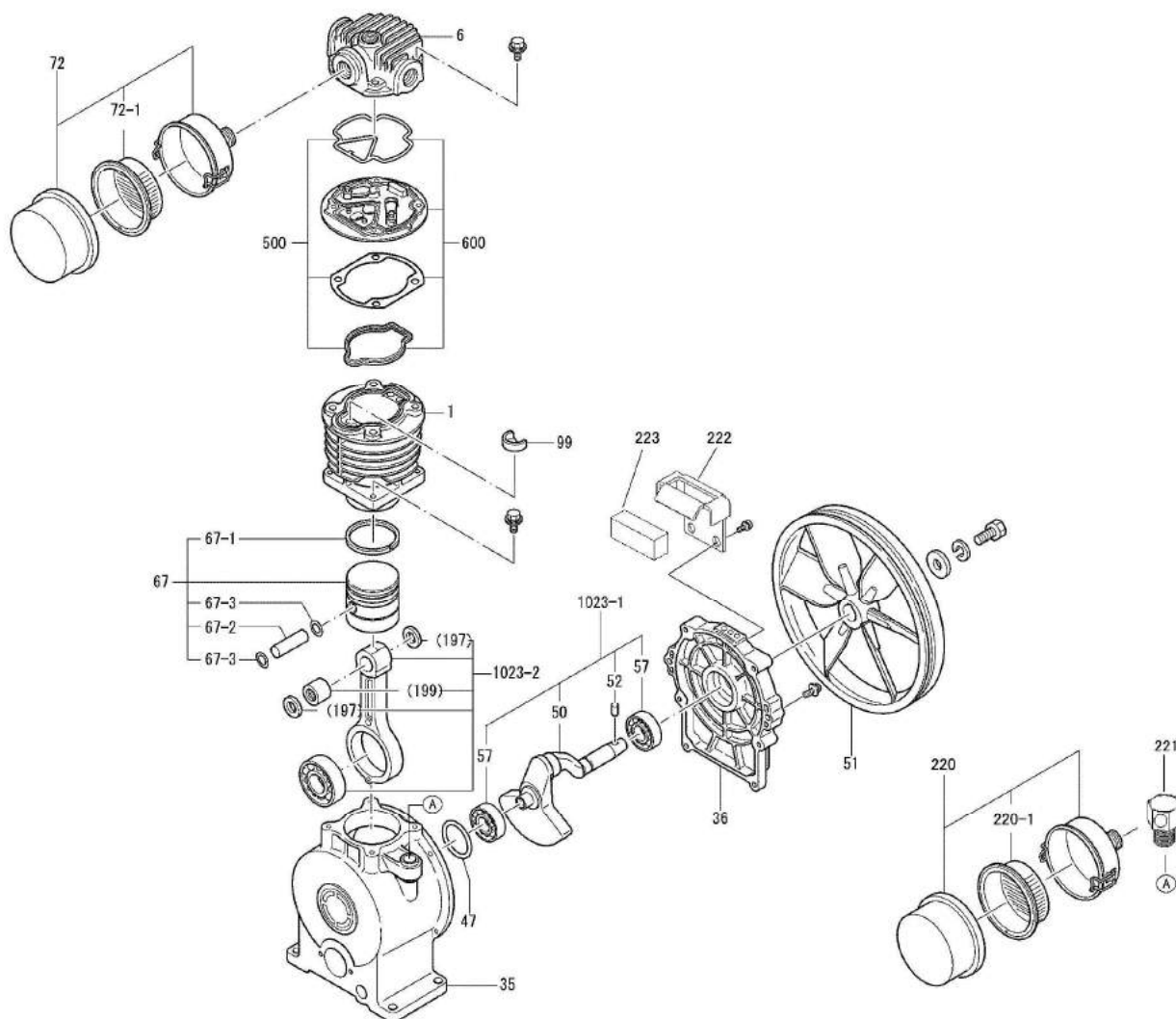
番号	部品名	個数
1	シリンダ	1
6	シリンダカバー	1
35	クランク室	1
36	軸受箱	1
47	ゴム棒※	1
50	クランク軸	1
51	フライホイールプーリ	1
52	平行ピン	1
57	ラジアル玉軸受	2

番号	部品名	個数
67	ピストンセット	1
67-1	ピストンリング※	1
67-2	ピストンピン	1
67-3	Oリング※	2
72	吸込口セット	1
72-1	フィルタ※	1
99	シート※	1
197	オイルシール※	2
199	ニードルベアリング	1

番号	部品名	個数
220	吸込口セット	1
220-1	フィルタ※	1
221	エルボ	1
222	ロソウステー	1
223	ロソウ※	1
500	パッキンセット※	1
600	パッキン付弁セット	1
1023	クランク軸セット	1

※印の部品名は消耗品です。

● 分解図



() 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

立体分解図

■圧縮機本体 (F223BP-10, F373CP-10)

●部品表

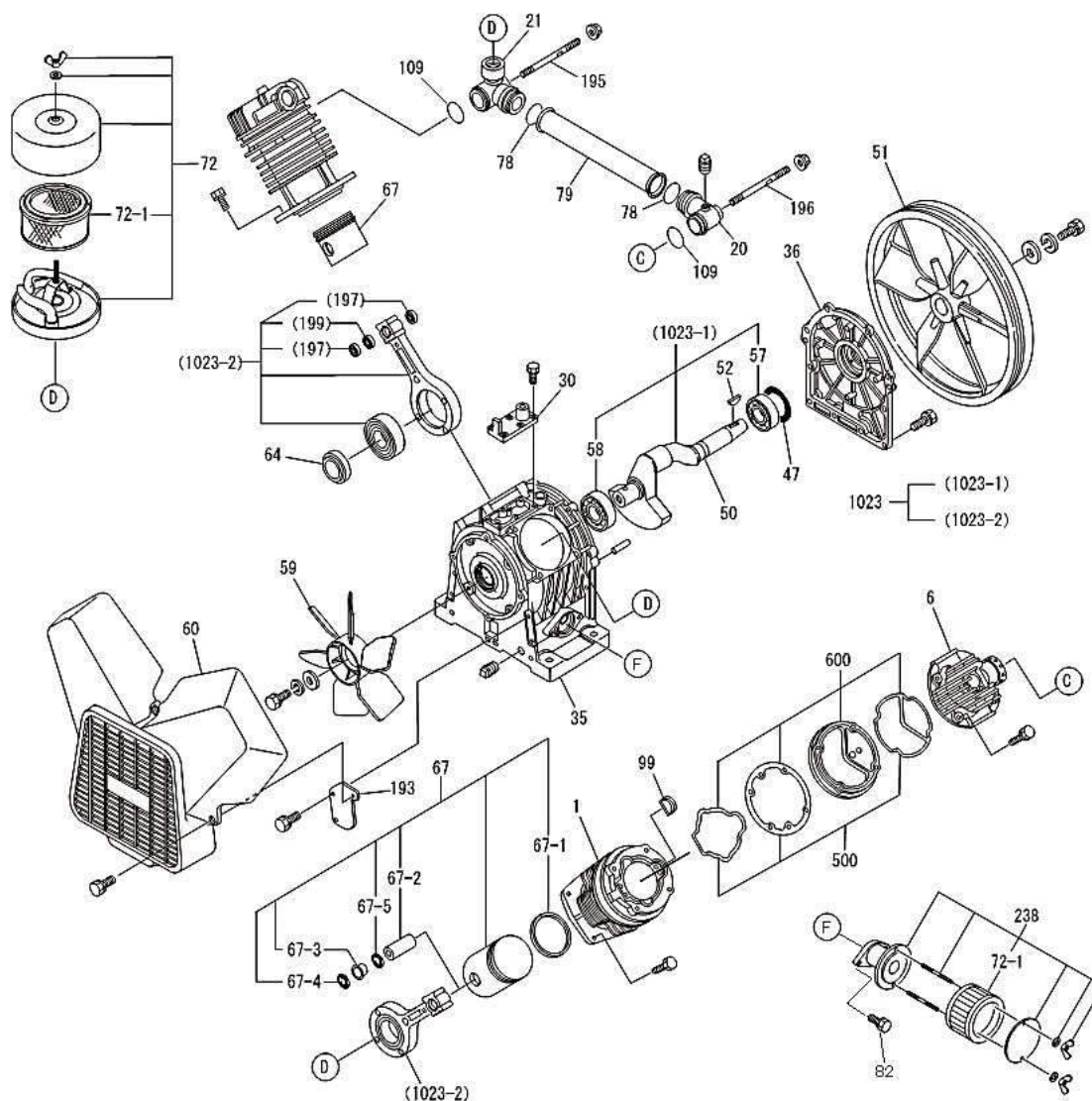
番号	部品名	個数
1	シリンダ	2
8	シリンダカバー	2
20	吸込ロジョイント(1)	1
21	吸込ロジョイント(2)	1
30	プリーザフランジ	1
35	クランク室	1
36	軸受箱	1
38	クランクケースフィルタ	1
47※	Oリング(2.2kW:ゴム棒)	1
50	クランク軸	1
51	フライホイールプーリ	1
52	半月キー	1
57	ラジアル玉軸受	1

番号	部品名	個数
58	ラジアル玉軸受	1
59	ファン※	1
60	本体カバー	1
64	ベアリングライナー	1
67	ピストンセット	2
67-1	ピストンリング※	2
67-2	ピストンピン	2
67-3	ピストンピンキャップ※	4
67-4	Oリング※	4
67-5	Oリング※	4
72	吸込ロセット	1
72-1	フィルタ※	2
78	Oリング※	2

番号	部品名	個数
79	吸込パイプ	1
82	座金組込ネジ	2
98	シート※	2
109	Oリング※	2
193	ファンガード	2
195	ボルト(1)	1
196	ボルト(2)	1
197	オイルシール※	4
199	ニードルベアリング	2
238	ケースフィルタセット	1
500	パッキンセット※	2
600	パッキン付弁セット	1
1023	クランク軸セット	1

※印の部品名は消耗品です。

●分解図



() 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

立体分解図

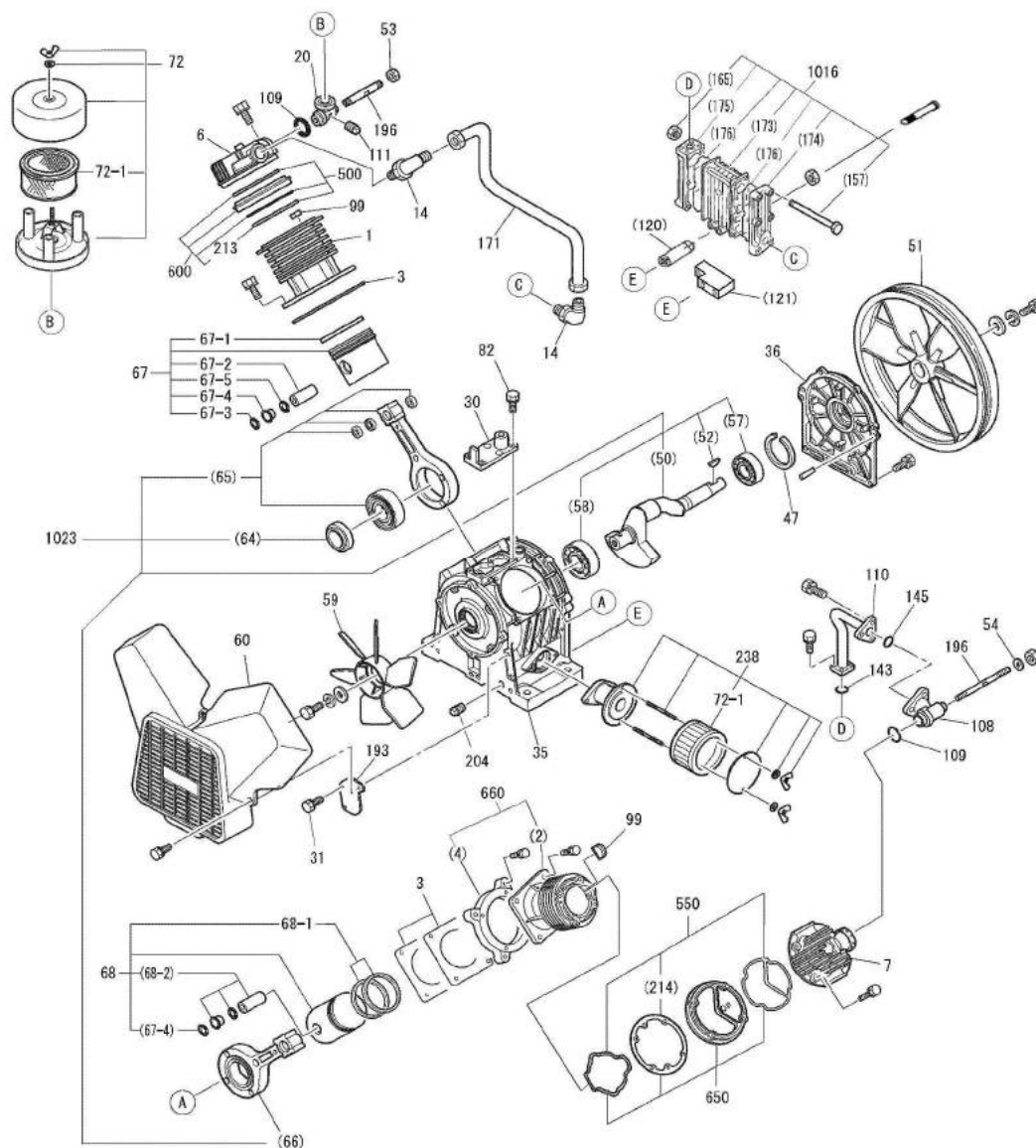
■ 圧縮機本体 (F553P-10, F553P-14)

● 部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ(LP)	1	54	シール座金※	1	72	吸込口セット	1	196	ボルト(2)	1
6	シリンダ(HP)	1	57	ラジアル玉軸受	1	72-1	フィルタ※	1	213	断熱シート※	1
3	ケースライナー	3	58	ラジアル玉軸受	1	98	シート※	2	214	断熱シート※	1
6	シリンダカバー(LP)	1	59	ファン※	1	108	冷却器ジョイント	1	238	ケースフィルタセット	1
7	シリンダカバー(HP)	1	60	本体カバー	1	109	Oリング※	2	500	弁パッキンセット(LP)※	1
14	特殊エルボ	2	67	ピストンセット(LP)	1	110	冷却パイプ	1	550	弁パッキンセット(HP)※	1
20	吸込口ジョイント(1)	1	67-1	ピストンリング(LP)※	1	120	ボルトセット	2	600	パッキン付弁セット(LP)	1
30	ブリーザフランジ	1	67-2	ピストンピン	1	121	クーラ取付ブロックセット(1.4MPa)	1	650	パッキン付弁セット(HP)	1
35	クランク室	1	67-3	ピストンピンキャップ※	4	143	Oリング※	1	1016	冷却器セット(1.0MPa)	1
36	軸受箱	1	67-4	Oリング※	4	145	Oリング※	1	1023	冷却器セット(1.4MPa)	2
47	ゴム棒※	1	67-5	Oリング※	4	171	冷却管セット(1)	1			
50	クランク軸	1	68	ピストンセット(HP)	1	172	冷却管セット(2)1.4MPa	1			
51	フライホイールプーリー	1	68-1	ピストンリング(HP)※	1	176	冷却器パッキン※	3			

※印の部品名は消耗品です。

● 分解図



() 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

立体分解図

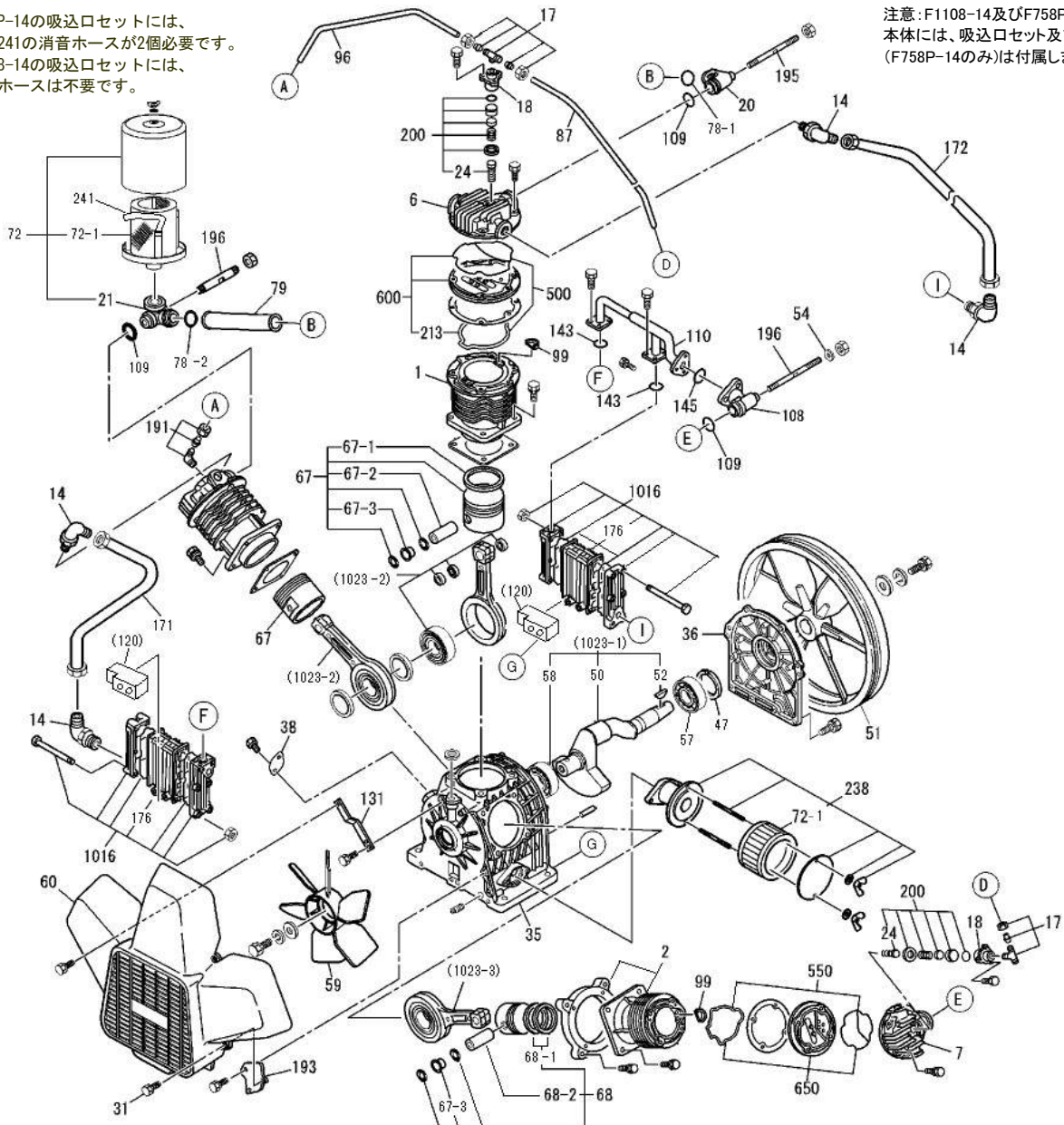
■ 圧縮機本体 (F758P-14, F1108-14)

● 部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ(LP)	2	54	シール座金※	1	78-1	Oリング※	2	191	エルボユニオン	1(0)
6	シリンダセット(HP)	1	57	ラジアル玉軸受	1	78-2	Oリング※	1	193	ファンガード	2
6	シリンダカバー(LP)	2	58	ラジアル玉軸受	1	79	吸込パイプ	1	195	ボルト(1)	1
7	シリンダカバー(HP)	1	59	ファン※	1	87	アンローダパイプ	1(0)	196	ボルト(2)	2
14	特殊エルボ	4	60	本体カバー	1	96	アンローダパイプ(2)	1(0)	200	アンローダセット※	3(0)
17	チーズユニオン	2(0)	67	ピストンセット(LP)	2	98	シート※	3	213	断熱シート※	2
18	アンローダキャップ	3(0)	67-1	ピストンリング(LP)※	2	108	冷却器ジョイント	1	214	断熱シート※	1
20	吸込ロジジョイント(1)	1	67-2	ピストンピン	2	109	Oリング※	3	238	ケースフィルタセット	1
21	吸込ロジジョイント(2)	1	67-3	ピストンピンキャップ※	6	110	集合接続管	1	241	消音ホース※	2
24	パネガイドセット	3(0)	67-4	Oリング※	6	120	クーラ取付ブロックセット	2	500	弁パッキンセット(LP)※	2
35	クランク室	1	67-5	Oリング※	6	131	カバーステー	2	550	弁パッキンセット(HP)※	1
36	軸受箱	1	68	ピストンセット(HP)	1	143	Oリング※	2	600	パッキン付弁セット(LP)	2
47	ゴム棒※	1	68-1	ピストンリング(HP)※	1	145	Oリング※	1	650	パッキン付弁セット(HP)	1
50	クランク軸	1	68-2	ピストンピン	1	171	冷却管セット(1)	1	1016	冷却器セット	2
51	フライホイールプーリ	1	72	吸込ロセット	1	172	冷却管セット(2)	1	1023	クランク軸セット	1
52	半月キー	1	72-1	フィルタ※	1	176	冷却器パッキン※	3			

● 分解図

- F758P-14の吸込ロセットには、番号241の消音ホースが2個必要です。
- F1108-14の吸込ロセットには、消音ホースは不要です。



※印の部品名は消耗品です。
 ()内の個数はF758P-14のもので、
 注意: F1108-14及びF758P-14圧縮機
 本体には、吸込ロセット及び消音ホース
 (F758P-14のみ)は付属しません。

() 部品の供給はセット部品として一括供給致します

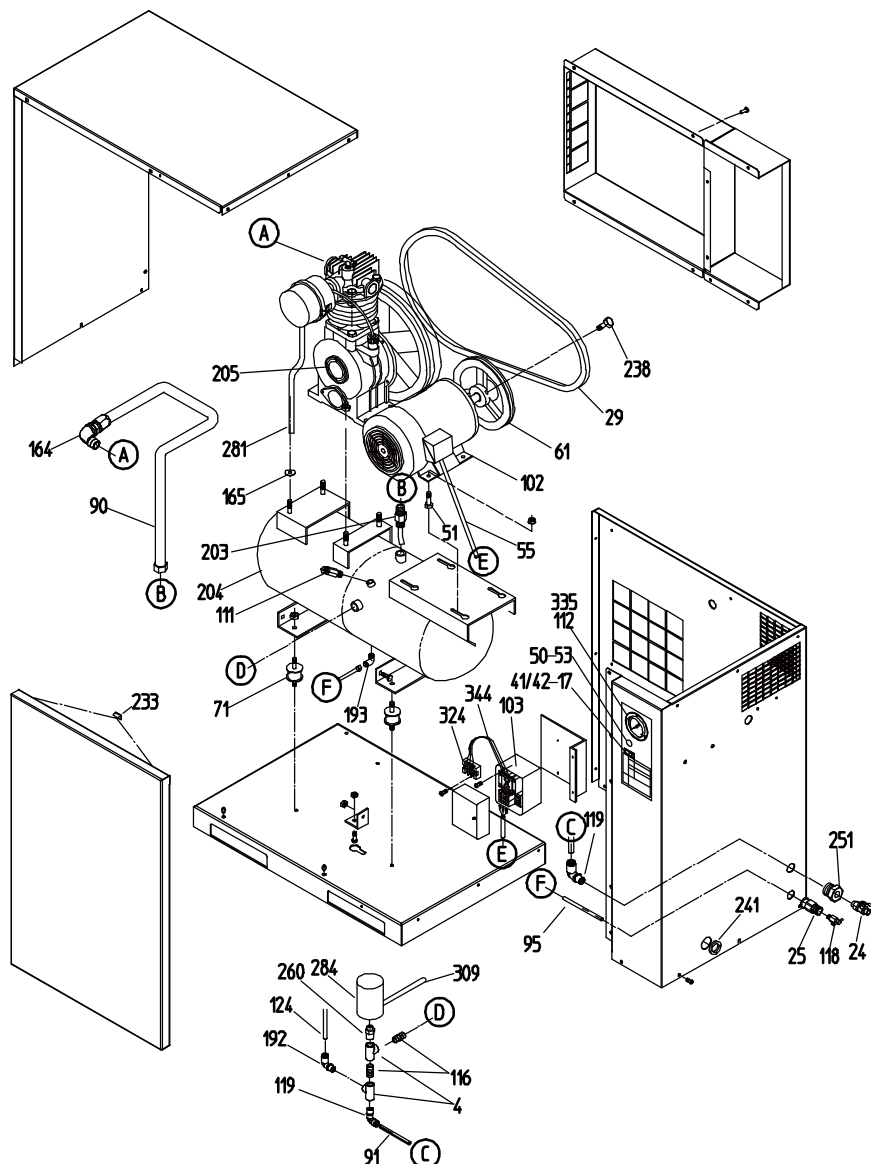
立体分解図

■圧縮機（ドライヤなし）

●仕様

形式	CFP15CF-8.5
圧縮機本体形式	F153P-10
運転制御方式	圧力開閉器制御
出力 kW	1.5
回転数 min ⁻¹	1240
吐出し空気量 L/min	160
吐出圧力 MP a	0.85
空気タンク容量 L	25
空気出口管径	G1/4(ボールバルブ)
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	695×585×840
質量 kg	90
騒音値 dB(A) 正面1.5m	58

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数
4	チー	2
17	ロッカースイッチ	1
24	ボールバルブ	1
25	隔壁用メスユニオン	1
29	Vベルト※	1
41	運転スイッチコード(1)	1
42	運転スイッチコード(2)	1
50	表示灯	1
51	ボルト	4
53	ランプコード	2
55	電動機コード	1
61	電動機プーリ	1
71	防振ゴム※	4
90	接続管セット	1
91	吐出パイプ	1
95	ドレン排水パイプ	1
102	電動機	1
103	電磁開閉器※	1
111	安全弁	1
112	圧力計※	1
116	バレルニップル	2
118	ドレンバルブ	1
119	エルボユニオン	2
124	圧力計パイプ	1
164	特殊エルボ	1
165	防振ゴム(本体)※	4
192	エルボユニオン	1
193	エルボユニオン	1
203	ジョイントセット	1
204	空気タンクセット	1
205	圧縮機本体	1
233	ラッチアンドストライク	4
238	高力六角ボルト	1
241	膜付グロメット	1
251	PTパネル	1
260	径違いニップル	1
281	吸込ホースセット	1
284	圧力開閉器※	1
309	圧力開閉器コード	1
324	端子台	1
335	メスエルボユニオン	1
344	電源コード	3

※印の部品名は消耗品です。

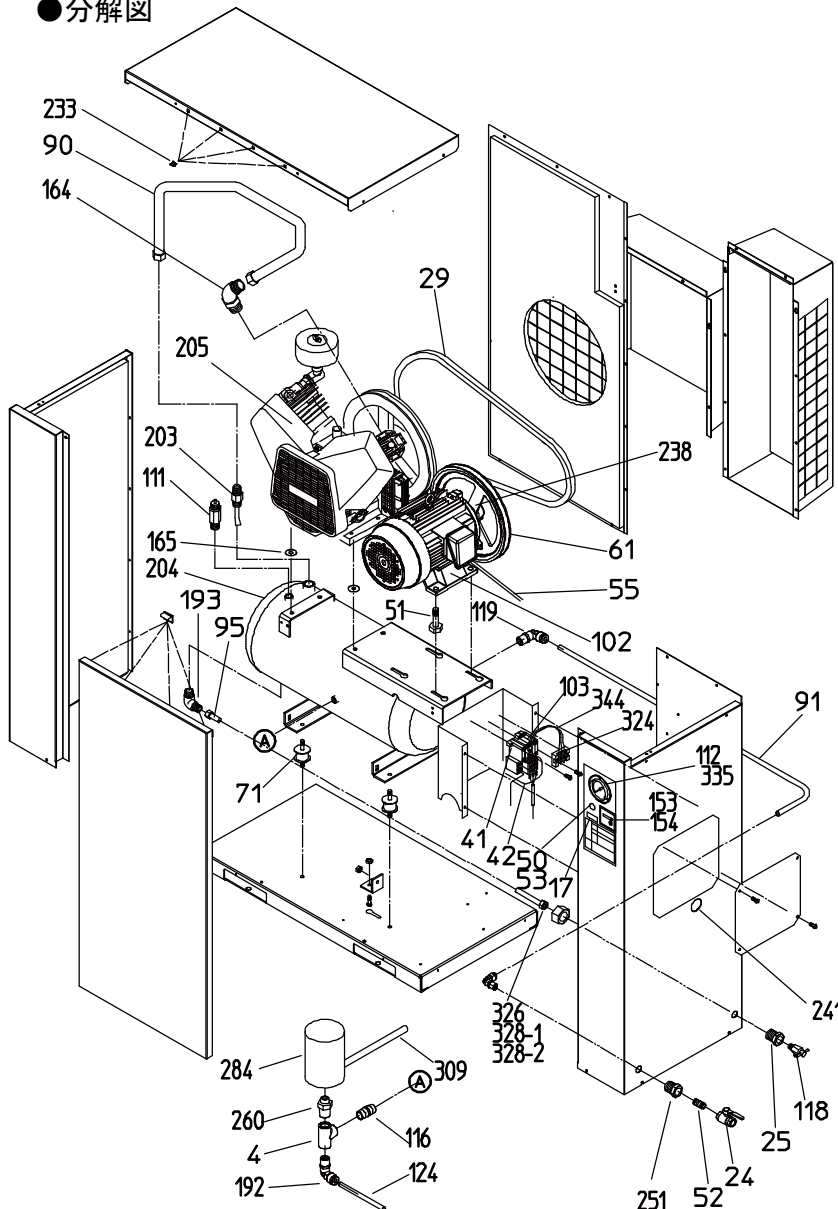
立体分解図

■圧縮機（ドライヤなし）

●仕様

形式	① CFP22CF-8.5	② CFP37CF-8.5
圧縮機本体形式	F223BP-10	F373CP-10
運転制御方式	圧力開閉器制御	
出力 kW	2.2	3.7
回転数 min ⁻¹	1100	1090
吐出し空気量 L/min	260	375
吐出圧力 MP a	0.85	
空気タンク容量 L	39	
空気出口管径	G3/8(ボールバルブ)×1	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	890×655×985	890×655×985
質量 kg	145	152
騒音値 dB(A) 正面1.5m	56	59

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数	
		①	②
4	チー	1	1
17	ロッカースイッチ	1	1
24	ボールバルブ	1	1
25	ドレンジョイント	1	1
29	Vベルト※	1	1
41	運転スイッチコード(1)	1	1
42	運転スイッチコード(2)	1	1
50	表示灯	1	1
51	ボルト	6	6
52	パレルニップル	1	1
53	ランプコード	2	2
55	電動機コード	1	1
61	電動機プーリ	1	1
71	防振ゴム※	4	4
90	接続管セット	1	1
91	吐出パイプ	1	1
95	ドレン排水パイプ	1	1
102	電動機	1	1
103	電磁開閉器※	1	1
111	安全弁	1	1
112	圧力計※	1	1
116	パレルニップル	1	1
118	ドレンバルブ	1	1
119	エルボユニオン	2	2
124	圧力計パイプ	1	1
153	時間計	0	1
154	時間計コード	0	1
164	特殊エルボ	1	1
165	防振ゴム(本体)※	4	4
192	エルボユニオン	1	1
193	エルボユニオン	1	1
203	ジョイントセット	1	1
204	空気タンクセット	1	1
205	圧縮機本体	1	1
233	ラッチアンドストライク	4	4
238	高力六角ボルト	1	1
241	膜付グロメット※	1	1
251	P.T.パネル	1	1
260	径違いニップル	1	1
284	圧力開閉器※	1	1
309	圧力開閉器コード	1	1
324	端子台	1	1
326	インサートリング	2	2
328-1	フクロナット	1	1
328-2	スリーブ	1	1
335	メスエルボユニオン	1	1
344	電源コード	3	3

※印の部品名は消耗品です。

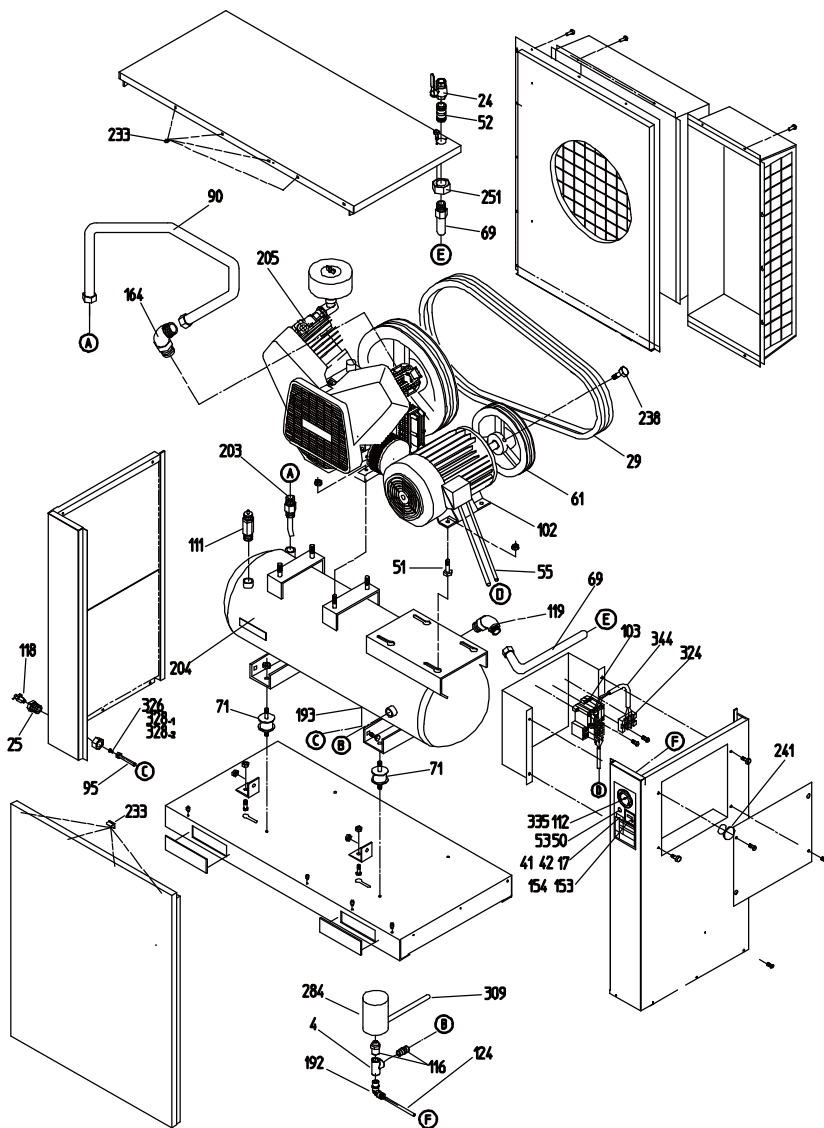
立体分解図

■ 圧縮機 (ドライヤなし)

●仕様

形式	CFP55CF-8.5
圧縮機本体形式	F553P-10
運転制御方式	圧力開閉器制御
出力 kW	5.5
回転数 min ⁻¹	940
吐出し空気量 L/min	565
吐出圧力 MP a	0.85
空気タンク容量 L	70
空気出口管径	G3/4(ボールバルブ)
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	1170×745×1100
質量 kg	260
騒音値 dB(A) 正面1.5m	59

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数
4	チー	2
17	ロッカースイッチ	1
24	ボールバルブ	1
25	ドレンジョイント	1
29	Vベルト※	2
41	運転スイッチコード(1)	1
42	運転スイッチコード(2)	1
50	表示灯	1
51	ボルト	4
52	バレルニップル	1
53	ランプコード	2
55	電動機コード	1
61	電動機プーリ	1
71	防振ゴム※	4
90	接続管セット	1
95	ドレン排水パイプ	1
102	電動機	1
103	電磁開閉器※	1
111	安全弁	1
112	圧力計※	1
116	バレルニップル	2
118	ドレンバルブ	1
119	特殊エルボ	2
124	圧力計パイプ	1
153	時計	1
154	時計計コード	1
164	特殊エルボ	1
192	エルボユニオン	1
193	エルボユニオン	1
203	ジョイントセット	1
204	空気タンクセット	1
205	圧縮機本体	1
233	ラッチアンドストライク	4
238	高力六角ボルト	1
241	膜付グロメット※	2
251	パネルジョイント	1
284	圧力開閉器※	1
309	圧力開閉器コード	1
324	端子台	1
326	インサートリング	2
328-1	フクロナット	1
328-2	スリーブ	1
335	メスエルボユニオン	1
344	電源コード	3

※印の部品名は消耗品です。

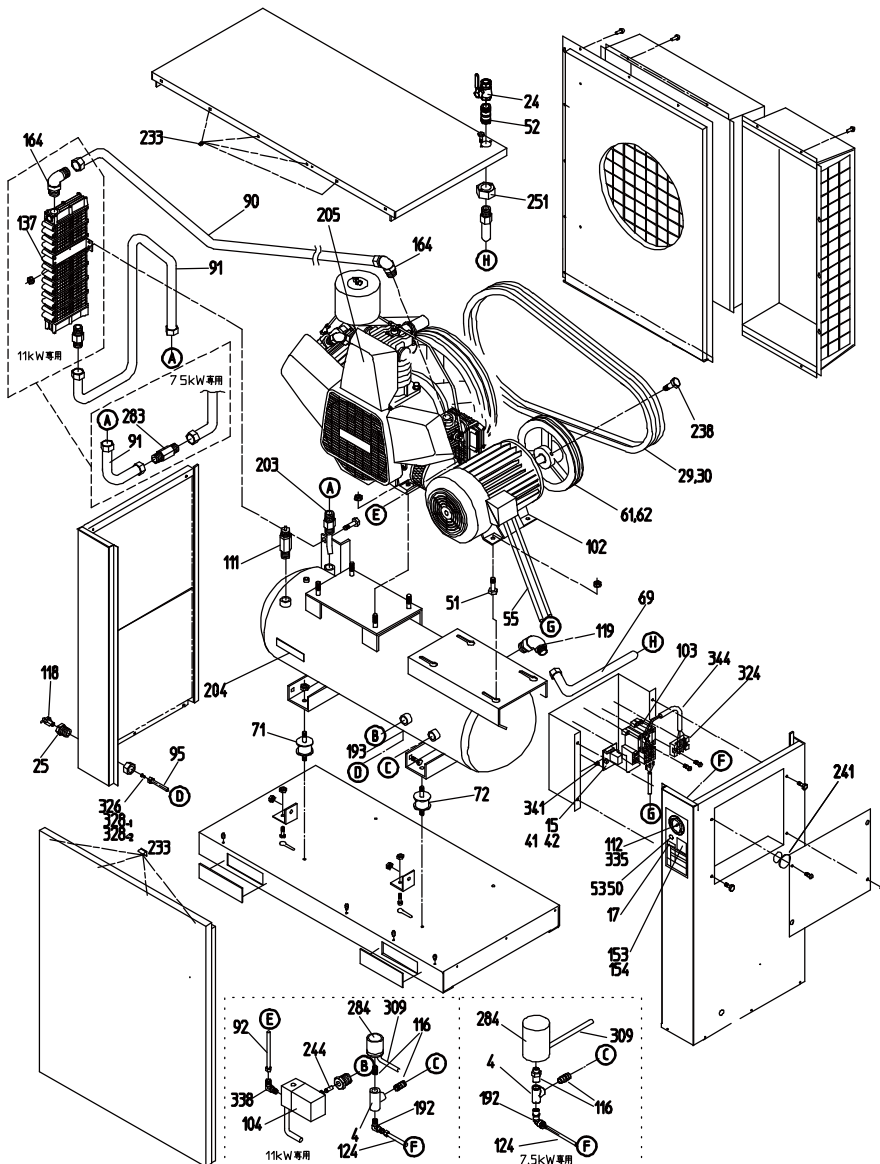
立体分解図

■ 圧縮機 (ドライヤなし)

●仕様

形式	① CFP75CF-8.5	② CFP110CF-8.5
圧縮機本体形式	F758P-14	F1108-14
運転制御方式	圧力開閉器制御	マニュアルデュアル制御
出力 kW	7.5	11
回転数 min ⁻¹	1030	1100
吐出し空気量 L/min	825	1140
吐出圧力 MPa	0.85	
空気タンク容量 L	70	75
空気出口管径	G3/4(ボールバルブ)×1	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	1230×870×1100	1230×925×1100
質量 kg	305	350
騒音値 dB(A) 正面1.5m	59	62

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数	
		①	②
4	チー	1	1
15	タンクマウント基板	0	1
17	ロッカースイッチ	1	1
24	ボールバルブ	1	1
25	ドレンジョイント	1	1
29	Vベルト※	2	2
41	運転スイッチコード(1)	1	1
42	運転スイッチコード(2)	1	1
50	表示灯	1	1
51	ボルト	6	6
52	パレルニップル	1	1
53	ランプコード	2	2
55	電動機コード	1	1
61	電動機プーリ	1	1
69	ゴムホース	1	1
71	防振ゴム※	4	2
72	防振ゴム※	0	2
90	接続管セット(1)	1	1
91	接続管セット(2)	1	1
91	吐出パイプ	1	1
92	アンローダパイプ	0	1
95	ドレン排水パイプ	1	1
102	電動機	1	1
103	電磁開閉器※	1	1
104	電磁弁	0	1
111	安全弁	1	1
112	圧力計※	1	1
116	パレルニップル	1	1
118	ドレンバルブ	1	1
119	特殊エルボ	1	1
124	圧力計パイプ	1	1
137	アフタークーラセット	0	1
153	時間計	1	1
154	時間計コード	1	1
164	特殊エルボ	1	1
192	エルボユニオン	1	1
193	エルボユニオン	1	1
203	ジョイントセット	1	1
204	空気タンクセット	1	1
205	圧縮機本体	1	1
233	ラッチアンドストライク	4	4
238	高力六角ボルト	1	1
241	膜付グロメット※	2	2
244	ストレーナー※	0	1
251	パネルジョイント	1	1
283	接続管固定セット	1	0
284	圧力開閉器※	1	1
309	圧力開閉器コード	1	1
324	端子台	1	1
326	インサートリング	2	2
328-1	フクロナット	1	1
328-2	スリーブ	1	1
335	メスエルボユニオン	1	1
338	エルボユニオン	0	1
341	スペーサ	0	4
344	電源コード	3	3

※印の部品名は消耗品です。

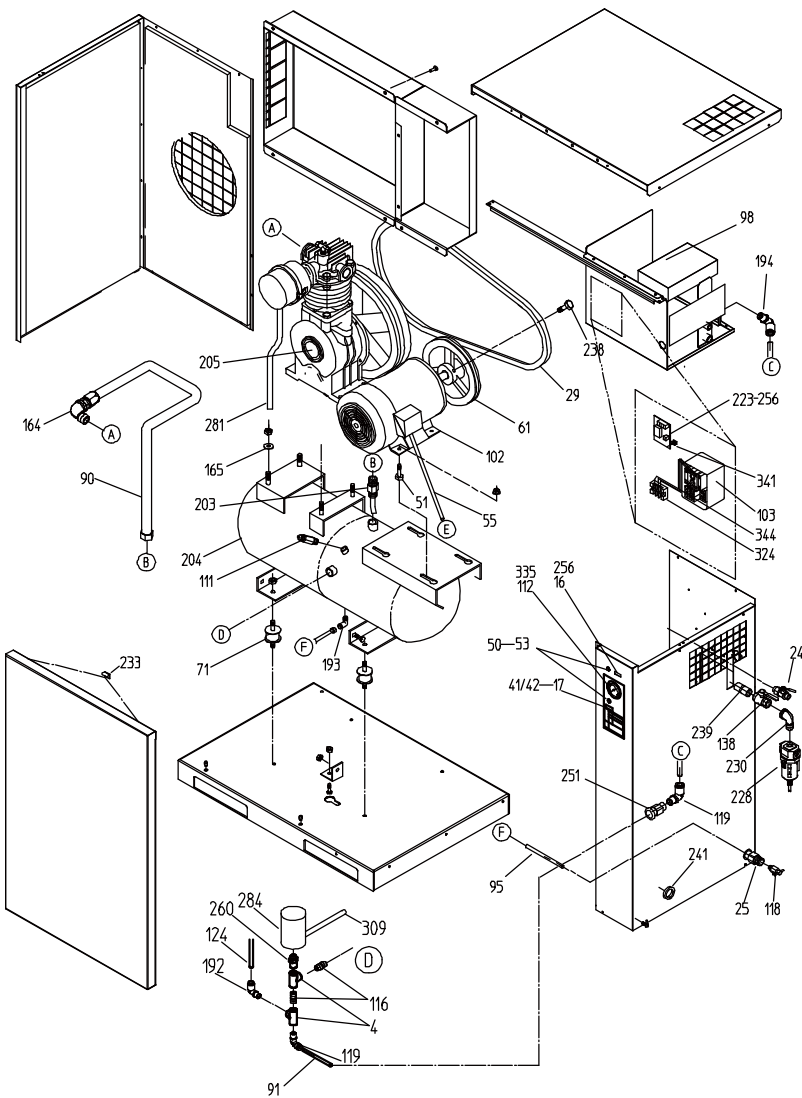
立体分解図

■圧縮機（ドライヤ付き）

●仕様

形式	CFP15CF-8.5D
圧縮機本体形式	F153P-10
運転制御方式	圧力開閉器制御
出力 kW	1.5
回転数 min-1	1240
吐出し空気量 L/min	160
吐出圧力 MP a	0.85
加圧露点 °C	15以下(加圧下)
空気タンク容量 L	25
空気出口管径	G1/4(ボールバルブ)
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	695×585×1000
質量 kg	110
騒音値 dB(A) 正面1.5m	58

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数
4	チー	2
16	ロッカースイッチ	1
17	コガタロッカースイッチ	1
24	ボールバルブ	1
25	隔壁用メスユニオン	1
29	Vベルト※	1
41	運転スイッチコード(1)	1
42	運転スイッチコード(2)	1
50	表示灯	1
51	ボルト	4
53	ランプコード	2
55	電動機コード	1
61	電動機プーリ	1
71	防振ゴム※	4
90	接続管セット	1
91	吐出パイプ	1
95	ドレン排水パイプ	1
98	冷凍式ドライヤ	1
102	電動機	1
103	電磁開閉器※	1
111	安全弁	1
112	圧力計※	1
116	バレルニップル	2
118	ドレンバルブ	1
119	エルボユニオン	2
124	圧力計パイプ	1
138	ボールバルブ	1
164	特殊エルボ	1
165	防振ゴム(本体)※	4
192	エルボユニオン	1
193	エルボユニオン	1
194	エルボユニオン	1
203	ジョイントセット	1
204	空気タンクセット	1
205	圧縮機本体	1
223	ドライヤ基板	1
228	オートドレンナー	1
230	ストリートエルボ	1
233	ラッチアンドストライク	4
238	高力六角ボルト	1
239	バレルニップル	1
241	膜付グロメット※	1
251	隔壁用メスユニオン	1
256	ドライヤスイッチコード	1
260	径違いニップル	1
281	吸込ホースセット	1
284	圧力開閉器※	1
309	圧力開閉器コード	1
324	端子台	1
335	メスエルボユニオン	1
341	スペーサ	4
344	電源コード	3

※印の部品名は消耗品です。

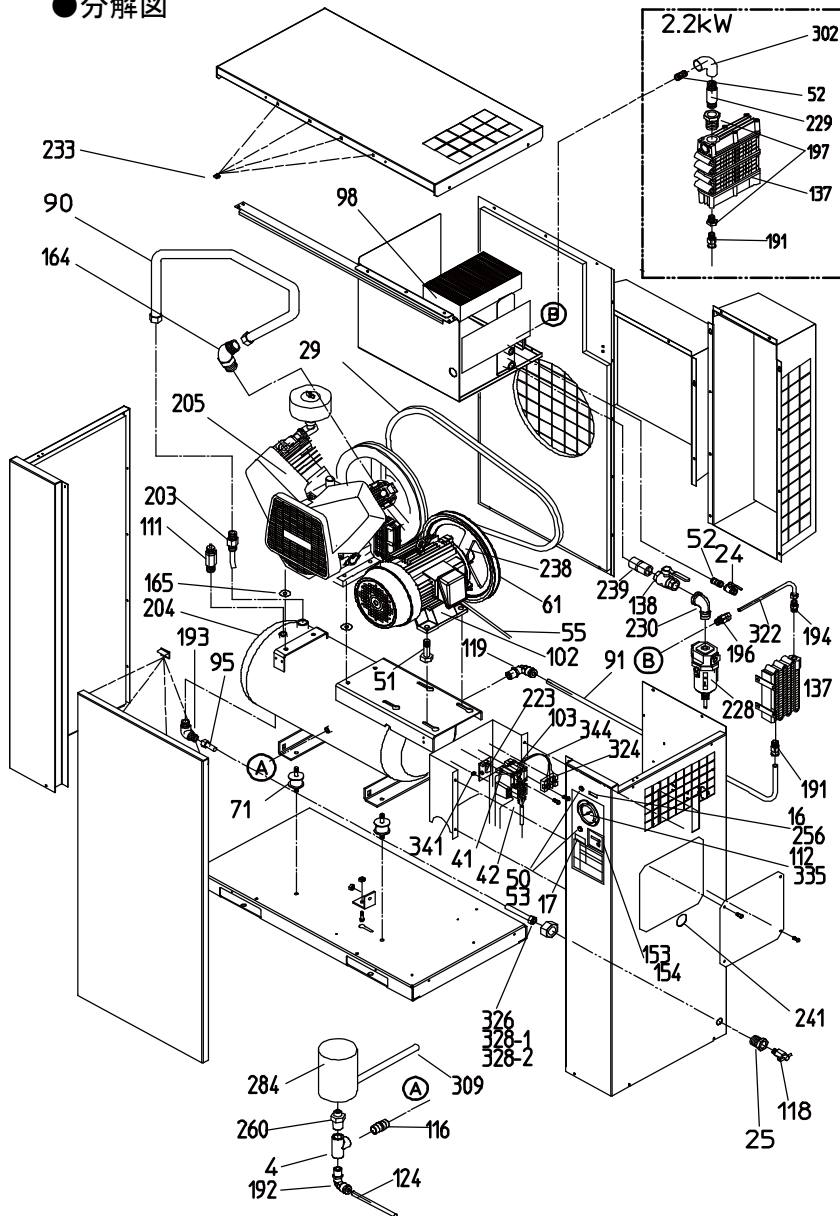
立体分解図

■圧縮機（ドライヤ付き）

●仕様

形式	① CFP22CF-8.5D	② CFP37CF-8.5D
圧縮機本体形式	F223BP-10	F373CP-10
運転制御方式	圧力開閉器制御	
出力 kW	2.2	3.7
回転数 min ⁻¹	1100	1090
吐出し空気量 L/min	260	375
吐出圧力 MP a	0.85	
加圧露点 °C	15以下(加圧下)	
空気タンク容量 L	39	
空気出口管径	G3/8(ボールバルブ)×1	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	890×655×1120	890×655×1200
質量 kg	160	182
騒音値 dB(A) 正面1.5m	56	59

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数	
		①	②
4	チー	1	1
16	ロッカースイッチ	1	1
17	コガタロッカースイッチ	1	1
24	ボールバルブ	1	1
25	ドレンジョイント	1	1
29	Vベルト※	1	1
41	運転スイッチコード(1)	1	1
42	運転スイッチコード(2)	1	1
50	表示灯	2	2
51	ボルト	6	6
52	バレルニップル	1	1
53	ランプコード	2	2
55	電動機コード	1	1
61	電動機プーリ	1	1
71	防振ゴム※	4	4
90	接続管セット	1	1
91	吐出パイプ	1	1
95	ドレン排水パイプ	1	1
98	冷凍式ドライヤ	1	1
102	電動機	1	1
103	電磁開閉器※	1	1
111	安全弁	1	1
112	圧力計※	1	1
116	バレルニップル	1	1
118	ドレンバルブ	1	1
119	エルボユニオン	2	2
124	圧力計パイプ	1	1
153	時計	0	1
154	時計コード	0	1
164	特殊エルボ	1	1
165	防振ゴム(本体)※	4	4
191	ハーフユニオン	1	1
192	エルボユニオン	1	1
193	エルボユニオン	1	1
194	ハーフユニオン	0	1
195	ハーフユニオン	0	1
197	ブッシュ	2	0
203	ジョイントセット	1	1
204	空気タンクセット	1	1
205	圧縮機本体	1	1
223	ドライヤ基板	1	1
228	オートドレンナー	1	1
229	ロングニップル	1	0
230	ストリートエルボ	1	1
233	ラッチアンドストライク	4	4
238	高力六角ボルト	1	1
241	膜付グロメット※	1	1
256	ドライヤスイッチコード	1	1
260	径違いニップル	1	1
284	圧力開閉器※	1	1
302	エルボ	1	0
309	圧力開閉器コード	1	1
322	ドライヤパイプ	0	1
324	端子台	1	1
326	インサートリング	2	2
328-1	フクロナット	1	1
328-2	スリーブ	1	1
335	メスエルボユニオン	1	1
341	スペーサ	4	4
344	電源コード	3	3

※印の部品名は消耗品です。

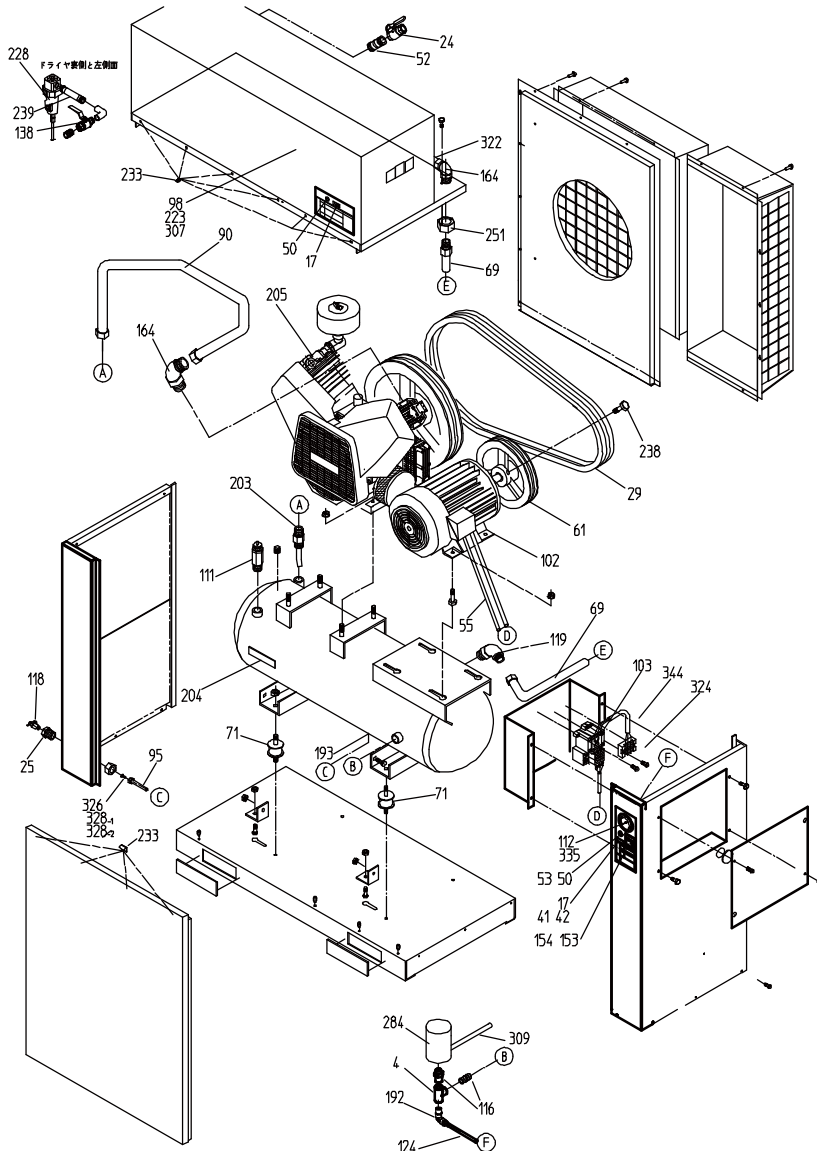
立体分解図

■圧縮機（ドライヤ付き）

●仕様

形式	CFP55CF-8.5D	CFP55CF-14D
圧縮機本体形式	F553P-10	F553P-14
運転制御方式	圧力開閉器制御	
出力 kW	5.5	
回転数 min-1	940	940
吐出し空気量 L/min	565	540
吐出圧力 MP a	0.85	14
加圧露点 °C	15以下(加圧下)	
空気タンク容量 L	70	
空気出口管径	G3/4(ボールバルブ)×1	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	1170×745×1530	
質量 kg	320	320
騒音値 dB(A) 正面1.5m	59	60

●分解図



●部品表

番号	部品名	個数
4	チー	2
16	ロッカースイッチ	1
17	コガタロッカースイッチ	1
24	ボールバルブ	1
25	ドレンジョイント	1
29	Vベルト※	2
41	運転スイッチコード(1)	1
42	運転スイッチコード(2)	1
50	表示灯	2
51	ボルト	4
52	パレルニップル	1
53	ランプコード	2
55	電動機コード	1
61	電動機プーリ	1
69	ゴムホース	1
71	防振ゴム※	4
90	接続管セット	1
95	ドレン排水パイプ	1
98	冷凍式ドライヤ	1
102	電動機	1
103	電磁開閉器※	1
111	安全弁	1
112	圧力計※	1
116	パレルニップル	2
118	ドレンバルブ	1
119	特殊エルボ	2
124	圧力計パイプ	1
138	ボールバルブ	1
153	時間計	1
154	時間計コード	1
164	特殊エルボ	1
192	エルボユニオン	1
193	エルボユニオン	1
203	ジョイントセット	1
204	空気タンクセット	1
205	圧縮機本体	1
223	ドライヤ基板	1
228	オートドレンナー	1
233	ラッチアンドストライク	4
238	高力六角ボルト	1
239	ロングニップル	1
241	腹付ゴムフムッシュ※	1
251	パネルジョイント	1
284	圧力開閉器※	1
307	ドライヤスイッチコード	1
309	圧力開閉器コード	1
322	ドライヤ接続管	1
324	端子台	1
326	インサートリング	2
328-1	フクロナット	1
328-2	スリーブ	1
335	メスエルボユニオン	1
344	電源コード	3

※印の部品名は消耗品です。

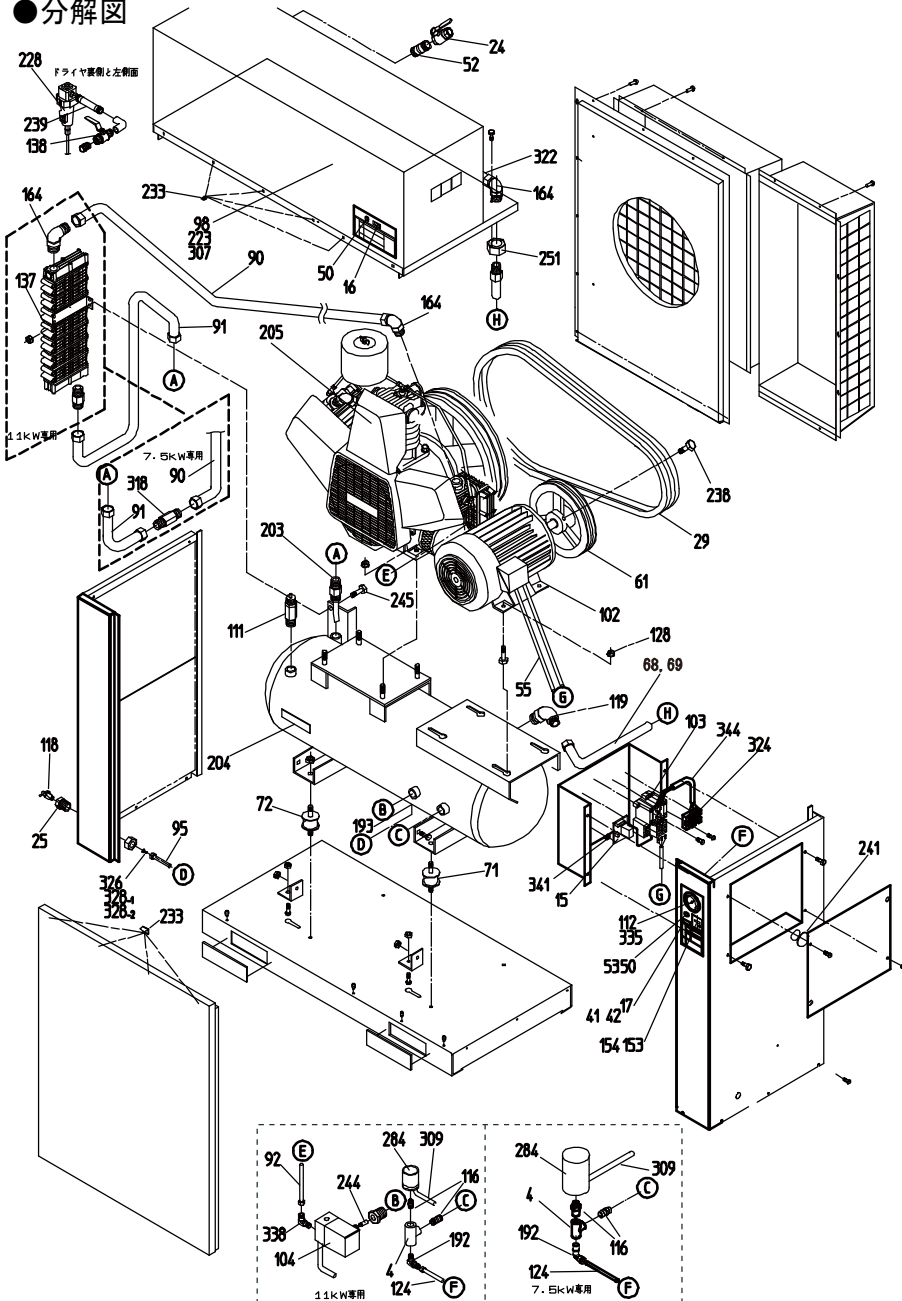
立体分解図

■圧縮機（ドライヤ付き）

●仕様

形式	①		②	
	CFP75CF-8.5D	CFP75CF-14D	CFP110CF-8.5D	CFP110CF-14D
圧縮機本体形式	F758P-14		F1108-14	
運転制御方式	圧力開閉器制御		マニュアルデュアル制御	
出力 kW	7.5		11	
回転数 min ⁻¹	1030	940	1100	1050
吐出し空気量 L/mi	825	725	1140	1055
吐出圧力 MPa	0.85	14	0.85	14
加圧露点 °C	15以下(加圧下)		15以下(加圧下)	
空気タンク容量 L	70		75	
空気出口管径	G3/4(ボールバルブ)×1		G3/4(ボールバルブ)×1	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	1230×870×1480		1230×925×1480	
質量 kg	370	370	415	415
騒音値 dB(A) 正面1.5m	59	60	62	63

●分解図



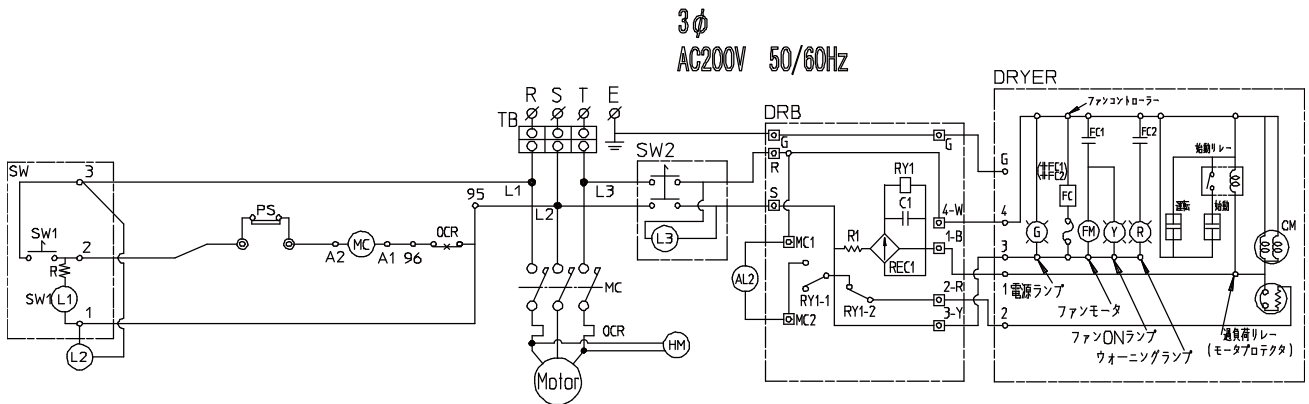
●部品表

番号	部品名	個数	
		①	②
4	チー	1	1
15	タンクマウント基板	0	1
16	ロッカースイッチ	1	1
17	コガタロッカースイッチ	1	1
24	ボールバルブ	1	1
25	ドレンジョイント	1	1
29	Vベルト※	2	2
41	運転スイッチコード(1)	1	1
42	運転スイッチコード(2)	1	1
50	表示灯	2	2
51	ボルト	6	6
52	パレルニップル	1	1
53	ランプコード	2	2
55	電動機コード	1	1
61	電動機プーリ	1	1
68	ゴムホース	1	1
69	フレキシブルチューブ	1	1
71	防振ゴム※	4	2
72	防振ゴム※	0	2
90	接続管セット(1)	1	1
91	接続管セット(2)	1	1
92	アンローダパイプ	0	1
95	ドレン排水パイプ	1	1
98	冷凍式ドライヤ	1	1
102	電動機	1	1
103	電磁開閉器※	1	1
104	電磁弁	0	1
111	安全弁	1	1
112	圧力計※	1	1
116	パレルニップル	1	1
118	ドレンバルブ	1	1
119	特殊エルボ	1	1
124	圧力計パイプ	1	1
137	アフタークーラセット	0	1
138	ボールバルブ	1	1
153	時計	0	1
154	時計コード	0	1
164	特殊エルボ	1	1
192	エルボユニオン	1	1
193	エルボユニオン	1	1
203	ジョイントセット	1	1
204	空気タンクセット	1	1
205	圧縮機本体	1	1
223	ドライヤ基板	1	1
228	オートドレンナー	1	1
233	ラッチアンドストライク	4	4
238	高力六角ボルト	1	1
239	ロングニップル	1	1
241	膜付グロメット※	1	1
244	ストレーナ	0	1
251	パネルジョイント	1	1
283	接続管固定セット	1	0
284	圧力開閉器※	1	1
302	エルボ	1	0
307	ドライヤスイッチコード	1	1
309	圧力開閉器コード	1	1
324	端子台	1	1
326	インサートリング	2	2
328-1	フクロナット	1	1
328-2	スリーブ	1	1
335	メスエルボユニオン	1	1
338	エルボユニオン	0	1
341	スペーサ	0	4
344	電源コード	3	3

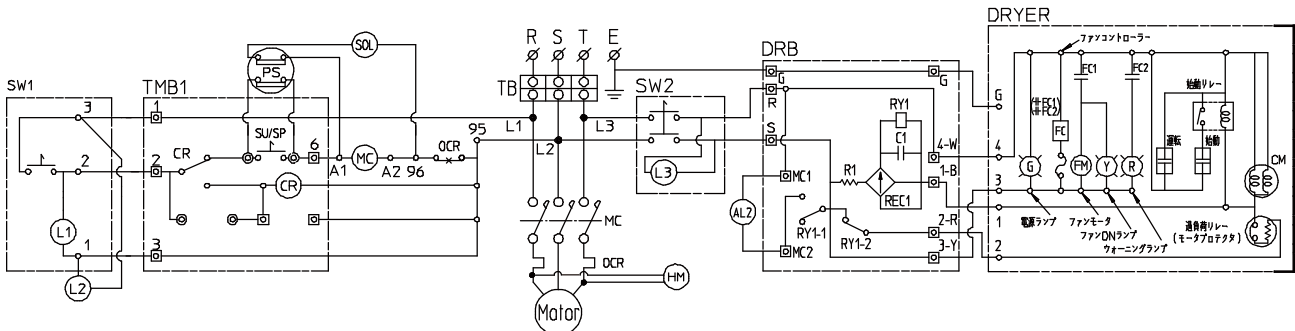
※印の部品名は消耗品です。

回路図

■ 1.5~7.5kW



■ 11kW



記号	品名	備考
MOTOR	電動機	
MC	電磁開閉器	
PS	圧力開閉器	
TMB	タンクマウント基板	11kWのみ
OCR	サーマルリレー	
L2	電源ランプ	
L1	運転ランプ	
TB	端子台	
SW1	運転スイッチ	
DRYER	冷凍式ドライヤ	ドライヤ付きのみ
DRB	ドライヤ基板	ドライヤ付きのみ
R	リレー	ドライヤ付きのみ
L3	ドライヤ運転ランプ	ドライヤ付きのみ
AL2	ドライヤ警報ランプ	ドライヤ付きのみ
SW2	ドライヤ運転スイッチ	ドライヤ付きのみ
SOL	電磁弁	11kWのみ
HM	時間計	3.7kW以上の出力機に

メモ

保証と修理サービス

保証について

保証書（保証規定）

お買い上げの商品を本取扱説明書にしたがって正常のご使用で万一故障が起きましたときは、本保証書の記載内容により無償修理いたします。

形式	品名	圧縮機
お客様	御社名	
	お名前	
	〒□□□□-□□□□ ご住所	
	TEL () -	FAX () -
保証期間	お買いあげ日 年 月 日から 「1年間」 または 「2500時間」 のいずれか先に到着した期間を「保証期間」とします。	
販売店	販売店名	
	〒□□□□-□□□□ ご住所	
	TEL () -	FAX () -

◇無償修理を受けるための条件および手続きと保証範囲

- (1) 本保証書をご提示のうえ、お買い上げの販売店又は当社支店・営業所にご依頼ください。
- (2) 本保証書に記入した内容（お買い上げ日、販売店）を確認できる納品書等を提示願います。
- (3) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
- (4) 本製品の故障または不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次補償に対する保証は致しません。

◇次の場合は保証期間内でもお客様のご負担（有償）になります。

- (1) 本保証書のご提示が無い場合
- (2) 本保証書にお名前、お買い上げ日、販売店名の記載が無い場合あるいは字句等を書換えられている場合
- (3) 取扱上の不注意・取扱説明書の記載事項を守られなかったことによる故障および損傷
- (4) 消耗品の交換・修理
- (5) 指定外の動力源（電圧、周波数、燃料他）又は天災・地変（火災、地震、水害、塩害、落雷、公害など）による故障および損傷
- (6) 純正部品以外の部品が使用されている場合
- (7) 製品を無断で改造している場合
- (8) 当社指定の修理店以外による修理がなされている場合

◇法的責任

本保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従って、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等またはご不明な点はお買い上げの販売店または当社支店・営業所までお問い合わせください。

◇保証書の保管

- 「保証書」は、内容をよくお読みになったうえで、「お客様のお名前・ご住所」、「お買いあげ日」、「販売店」など必要事項については、誠に恐縮ですがお客様にご記入していただき、納品書と共に大切に保管して下さるようお願いいたします。
- 本保証書は紛失されても再発行しませんので、大切に保管してください。

保証と修理サービス

修理サービスについて


修理を依頼されるときは

- 修理はお買いあげの販売店又は当社支店・営業所にご相談ください。
このときお買いあげの商品の形式名およびお買いあげの時期をお知らせください。
- 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料にて修理いたします。
- 詳しくはお買いあげの販売店にご相談ください。
また、その他ご不明な点は当社支店・営業所へお気軽にお問い合わせください。
最新のお問い合わせ先につきましては当社ホームページ<http://www.anest-iwata.co.jp>をご覧ください。


お問い合わせ先

➤ 電話でのお問い合わせ

- ・コンプレッサ、窒素ガス発生装置、真空ポンプ、DIY 商品
に関するお問い合わせ

 **0800-111-9681**

- ・その他、上記以外に関するお問い合わせ

 **0120-917-144**

受付時間： 9:00～12:00/13:00～17:00

但し、土日・祝日・弊社指定休日を除く。

➤ メールでのお問い合わせ

当社ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。



<http://www.anest-iwata.co.jp>

 **アネスト岩田株式会社**

〒223-8501 神奈川県横浜市港北区新吉田町3176番地

01005691
C027-02